新女界

第四卷第八號目次

東京新人社發行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

千代田香油

夏は一番髪油に注意する時
上品な本品は清楚として奥床しく
人様にまで快感を與へます

スワン石鹼發賣元
山岸三之助
東京、大阪

定價
七十錢
卅五錢
廿五錢
十七錢

牧羊者カード

●縦三寸二分　横二寸三分
●十枚取合五十枚入壹包二十五錢郵税二錢

全國日曜學校大會紀念として發賣せる日曜學校用**新式カード**にして幼年科及高等科の男女生徒達の意向に適する様彩色體裁等に充分なる注意を加へ**五十枚共各異**なりたる聖句を刷り込みたる高尚優美の品なれば御注文の上續々御試用あらん事を冀ふ

東京小石川區武島町二十五
發賣元　便宜堂商店
振替貯金東京六三三〇番

特約販賣店
○東京銀座教文館●東京尾張町警醒社書店●東京有樂町基督教書類會社●東京神田小川町普光社○大坂北久寶寺福音社書店

便宜堂商店目錄 御入用の方へ二錢切手又往復はがきにて申越あれば進呈致候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏期號

新人

八月一日

第十三卷第八號要目

▲北海道に於ける今昔の感　社説

▲基督の祈禱　海老名彈正

▲宗教と美術　深田博士

▲基佛兩教の接觸　富永德磨

▲精神界歸一の大勢　成瀨仁藏

●聖地旅行の回顧　德富健次郎、山田寅之助、木村清松、小西增太郎、荻原信行

▲愛のある所神あり　トルストカ

▲北海道旅行記　海老名生

▲夕の室（詩）　村田四郎

▲大同江の半日　南陽生

▲伯林より巴里へ　吉野作造

▲在米日本人の生活　八布白生

●其他海外だより、同人日記、時評等　內容豐富

定價　一部十五錢　一年一圓六十五錢

小石川區林町四三　新人社

新女界第四卷第八號目次

（八月一日發行）

聖上陛下崩御……（卷頭）
○休暇の利用（四）……安井哲子
△湖畔雜吟（五）……茅野雅子
○世界の舞台より見る日本人（三八）……高田畊安
○夏の祭（二〇）……文學博士 姉崎正治
△ほゝづき、炎天、紫蘇（二三）……和子
○エリオット博士と語る（二四）……廣岡淺子
△森の家より（二八）……たみ子
○眞夏の編輯室（三〇）……某新聞婦人記者
△夏の朝（三三）……しのぶ子

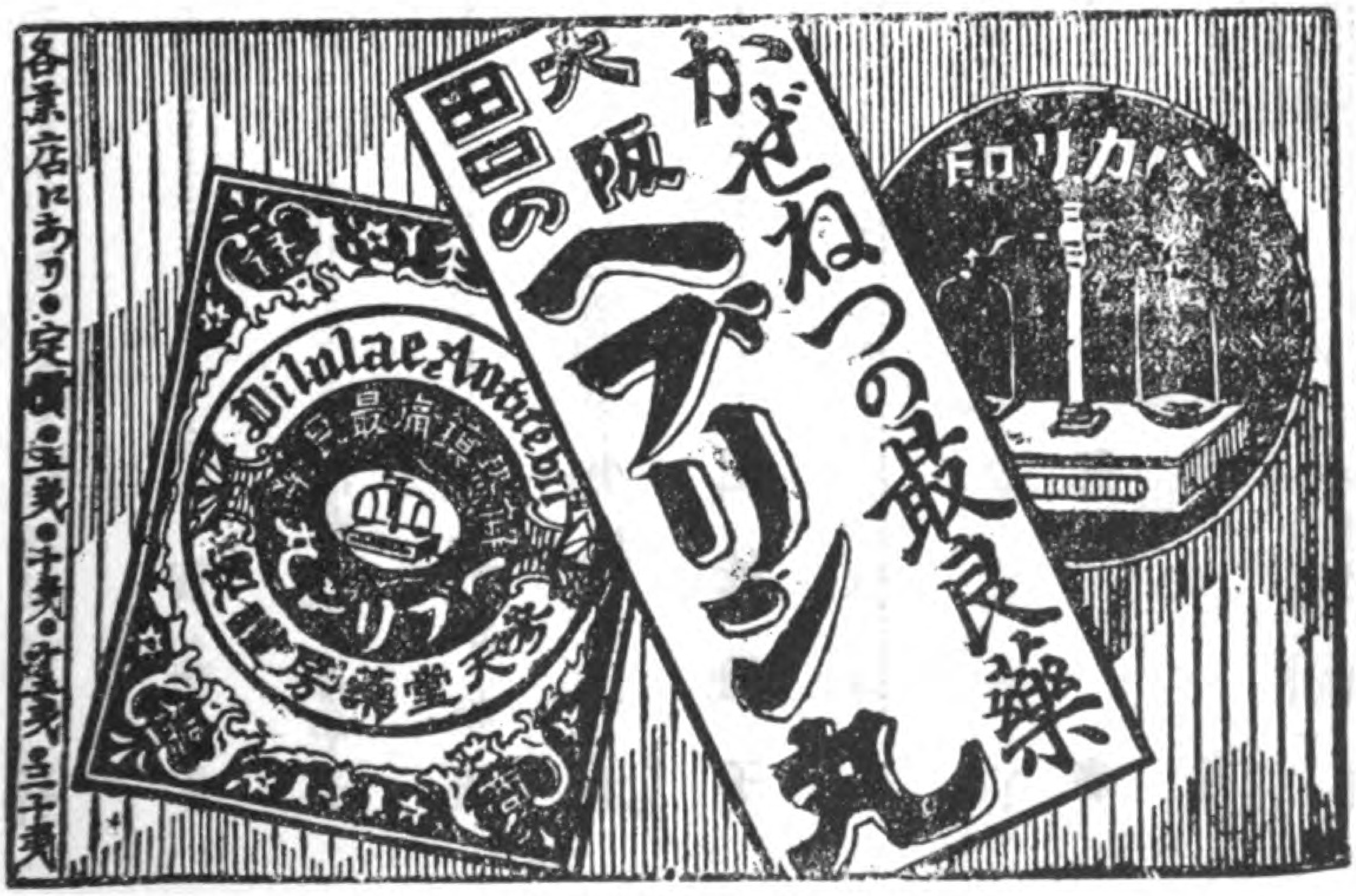
Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

○キャンプの夏（三五）……小此木松子
△草花の保存法（三八）……記者
○夏と兒童遊戲の一二三（三九）……甲賀藤子
○自然と子供（四五）……海老名みや子
○簡易生活と食物（五〇）……手塚かね子
△晩年の手習（五四）……小林あや子
○ローヘングリン（五五）……三枝幾子
○隨感（六六）……
△暑さも亦心の持ち樣（安井哲子）△變化の生活（海老名みや子）△蝶の訓（S、T、子）
聖上陛下の御不例に就て（七〇）……記者
△編輯だより（七二）……編者
○神との交り（八）……海老名彈正

「かれこれと迷ふこと勿れ
完全無缺なる大學目藥あり

大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基きし貴重の製劑にして●はやり目●トラホーム●星目●のぼせ目●かすみ目●血目●疲目其他眼病一切に驚くべき奇効あり●全國各地有名の藥店にあり



聖上陛下崩御

聖上陛下

吾等六千萬同胞の熱禱切願にも拘はらず、明治四十五年七月三十日午前零時四十三分、遂に崩御遊ばさる、天慟地哭、萬民驚愕、只黯然として涙に伏す、一國の深愁これに過るものあるべしとも覺えず、嗚呼悲哉。

去月二十日　陛下御不例の報公表さるゝや、萬民は憂心忡々、寸時も安んぜず、ひたすら御平癒の速かならん事を祈り奉りては、熱涙滂沱、全心全靈を捧げしにも拘はらず、天壽如何ともなす可らず、遂に溘然として人天を隔て給ふ、天地慘として聲なく、草木悄として愁を帶ぶ、嗚呼痛哉。

恭しく惟みるに　聖上陛下寶祚に登り給ひてより茲に四十又五、洪德八紘に布き仁義宇內を蔽ふ、膺懲の典を正し給ふ事前後二回、爲めに皇威四隣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に伸び、允武維れ揚り、茲に東洋の第一等國こして世界に不動の基礎を建てさせられ、帝業赫々として古往を絶す、洵に古今の聖帝として拜仰措かざりしが、寶算僅に六十一にして神去り給ふ、哀痛の極殆んご云ふ處を知らず。

若し夫れ　陛下日常の御乾德に至りては國民の儀表にましまし、深く天地の神明に對して敬虔の至誠を灑ぎ給ひ、玉音直ちに其度となり、聖體直ちに其律こなる、四民階級を統一して民心の嚮向を明示し給ふ、且つ又九重を内に壯にさせ給ふ事なく、外蒼生の上を軫慮あらせられ、九萬五百の御製悉く之れ卑きを顧ひ給ふ大御心なるを拜察する毎に　吾等未だ嘗つて聖恩の甚深なるに感涙を催さゞる時无かりき、而して今や聖帝、溘焉として吾等を殘して永き御眠に就き給ふ、嗚呼痛哉。

吾等今筆を執り、丹心を披瀝せんこして、神慄ひ身戰き、慟哭辭をなす能はず、唯謹み畏みて昭鑑に供し奉る。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

社説

休暇の利用

安井哲子

既に暑中休暇となつて、學生方は勿論、我々も亦幾分靜養の機會を得ました、日頃忙しい生活をなす者は、時に靜養の必要がありますが、之れは何事も爲さずに唯坐食し、徒に睡眠を貪るといふのでないのは勿論で、精神及身體に有益な變化を與ふる意味であります。其故に必しも長い間働き繼けて、時に又長い間休まねばならぬといふのでなく、人々に依つて、一週間に一度、一ケ月に一度、或は又一日の中の或時間に身體と精神とに靜養を與ふる事は出來ます。英國の知人に非常な多忙な生活をして居る人がありますが、毎木曜日には事務所から直に汽船である田舍に行き、閑靜な田舍路を數時間歩いて、再汽船で歸宅するのが例であります。終日何十といふ人々に接し、複雜な事務を處理して腦を非常に多く用ふる人の爲めには、かやうな變化を身心に與ふる必要がありませう。又ある方は如何に多忙でも、日々晝食後の二三時間を睡眠に充て、其前後に於て活潑に働く習慣になつて居りますが、かくすれば暑中休暇などは全く不要であるといつて居られます。是等は其人々の體質と職業の種類とに依つて變化致すので御座いませう。

　そこで我々の現在有つて居る此長い暑中休暇は如何に利用致しませうか。都會の寄宿舍住居をして居られた方々は、無論自宅に歸つて家庭の温い空氣に

觸れ、美くしい感情敎育を受けらるゝがよく、之れと同時に田舍の淸い空氣を吸つて身體を健康にし、天然に接して、自然の眞理と無言の敎訓とを得らるるのは、實に良い變化であります。又地方にのみ住んで居らるゝ方々は、此機を利用して都會を見物し新しい種々の智識を得て歸らるゝのもよろしう御座いませう。よく田舍より都會に、又都會より田舍に旅行して、平生の生活中ある不足の者を互に交換しあふ事は、心の修養上に大切で、殊に彼我互に同情し、興味を分つ點には大なる利益があります。

例ば東京の暑に堪へずして避暑する人が、汽車の窓から田畠に出でて炎天に勞働して居る農家の男女を見ました時に、如何なる感が起りませう。かくの如くに暑さを冒して働く人々がないならば、我々は如何に都に金錢を貯へても、日々の食料を得る事が出來ぬ事を覺りませう。そこで彼等に對して親しみと同情と感謝の念が起つて、坐食する者のみでは、到底人間の生存は不可能である事を知る事が出來ます。或は又彼等の質素平和な生活狀態を見て、美食美衣のみが決して人を幸福にする所以でない事も解りませう。其他廣き天地に接しては如何に人間の小なるかに驚き、自然の眞理を味つては、如何に人間に僞り多きかを知る事が出來ませう。是等は劇場內寄宿內、又は家庭內の生活では到底感じ得られぬ刺戟で、安逸に流れ、贅澤に傾き、不誠實に陷りかゝつた心を戒むるには最良き機會であります。又都會に出でて驚くべき交通機關の發達を觀、又は種々の方面に於て己れに勝つた人々に出逢ふ事は、常に狹い田舍にのみ生活する人々には良き刺戟でありませう。

之れを一層大にしては、此長い休暇を利用して、或は支那に、或は日本に、或は米國に、或は英國に東西の人々が互に其處を換へて相訪問しますれば、獨智識の點に於てのみならず、同情親睦の點に於ても亦得る所が大きいで御座いませう。世の文明と共に分業は益盛になり、之れと同時に吾等の生活は益

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世界的になつてまゐります。そこで益分るゝは益其一部を發達せしめんためで、それは卽其全部を進歩せしむる所以であります。從つて我の從事する職業は益奮勵し、之れと同時に他人の從事する職業を尊敬して彼我相同情せねばなりません。此理を能く味ひ能く解するのは、卽多くの人々に接し、多くの境遇に出逢ふ事で、旅行は此機會を與ふる唯一の方法であります。

殊に吾々女子は男子に比較して、住む範圍が狹く交る人々も限られて居りますから、世間の事情に暗く、況して世界の大勢に通ずるなどといふ事は殆不可能の狀態であります。それ故周圍の小さな事にのみ心を注いで、美衣美食に心を奪はれ、勞働を賤しみ、安逸を貪るやうになるのみならず、異つた境遇の者に興味を向ける事が出來難くなります、故に出來得るならば、吾々女子は成るべくかゝる休暇を利用して、旅行を試みたいと思ふのであります、併旅をするには相應の費用が要る事は勿論であります近來は親切な鐵道院の計畫で、少ない費用を以て諸處見物し得るやうになりましたから、是等を利用して種々の利益を得る事が出來ませうし、又家族や朋友知己が相共同して簡單質素な旅行を試むる事も出來ませう。歐米の婦人は簡單な服裝で、能く外國の山海を跋涉して樂しみます、吾國の婦人は旅行に不適當な立派な服裝を用ひますために、活潑な運動が出來ません。其故折角新しい地方に來ながら、多くは旅館の近傍を散步するか、時としては籠や車で名所古蹟を訪ねる位で、旅行の興味の大部分を失つてしまふのであります。或知人の召使が、お盆の十六日に主人から一日の休暇を頂き、大喜びで仲間の女中と上野淺草と遊び歩いたそうでありますが、之れがために折角新調した絹の單衣を汗だらけにして、洗ひ張りをせねば其まゝ再着かれぬとこぼして居たそうであります、之れは所謂女中の虛榮で、絹の衣服を着ねば友達に對して肩身が狹いと、どうしても主人の注意を聞き入れなかつた結果であります、我

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

々も亦旅行の精神を誤つて之れに類した愚を爲す事があります。

要するに、我々は其體質と職業とに應じて、時に心身を靜養する事は健康と元氣とを保つ上に最必要でありますから、暑中休暇の如き長き時日は、何卒して之れを有益に用ひ、興味の範圍を廣め、大なる天地に觸れて精神の修養を資け、或は登山、或は長距離の徒歩旅行でも試みて、充分に體力を練り益健康と元氣とを增進したい者であります。

（うめくさ）

トルストヰでありましたか、「人間は土を離れる時は墮落する」といふ意味の言葉を申して居ります。文明の利器は一方からは人間を益々土から離して行きます。日々食膳に上る食物はどうして出來たのであるか、どんなに多くの人の勞力が拂はれて居るかも知らずして、只金を出せば、いつでも易々手に入るものと思つて居る、一寸外出するにも車もあれば電車汽車もあつて、我が足は土を蹈まずして、山をも河をも通る事が出來る。そして人々の勞働は次第に足より手に、手より頭に移つて、神經のみが過敏になつて行く。この時文明が病的に陷らずに居りませうか。

夏期の旅行は都會の人にたしかに土を忘れしめない一つの方法である。所謂世間に行はるゝ贅澤の旅行は問ふ所でない、出來る丈け簡易な生活に入つてその不自由な境遇を、我が手足を勞して啓きつゝ、生活する時に、農夫や、大工の恩惠の大なるを思ひ我々の生活が常にいかに多くの人々の助けによつて營まれて居るかを感謝せずには居られぬでせう。同時に充分の光線を浴み、天地に滿つる大氣を呼吸し身體の運動は活潑なる血液の循還を誘ふ。この時わが神經は正しく、わが思想は健全となり、神が人間に下し給ふた眞正なる爽快の念を味ふ事が出來ます。（三四子）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

神との交り

海老名彈正

△神に關する二つの觀念

神に關する二つの觀念がある、一は卽ち萬有に神が滿ち給ふと云ふ説で、他は神が萬有に超絶すると云ふ説である、神が萬有にみち給ふと云ふ説は近來基督教界に於て最も高調せらるゝ處であるが、こは强ち近世新たに發見せられたる眞理ではない。之れは舊約の時代から唱へられた所であるが、其時代には唯それが一般人類の上には明かになつてゐなかつた。夫れには譯がある、此神が天地萬有の中、何處にもましますと云ふ説は多神教のために暗まされ、其ために神の觀念が頗る低きものとなつて、禽獸蟲魚も之を神と思ふ樣になつた。斯うなつて來ると嚴かな神の性格は認められなくなる。之に反して神が萬有に超絶して在し給ふと云ふ説は誠に清く嚴かなもので、天地萬有は神の宿り給ふ所にあらず、神は此の汚れと罪とにみちたる森羅萬象の中に宿り給ふには餘りに清き御方で、天地萬有を超絶して在し給ふのであると。此説は又餘りに高遠にして、神と吾等とは殆んど沒交渉で、神は吾等を聖旨にかけ玉はない、吾等は塵芥にも等しいものであると思はしむるに至つたのである。此二つの思想は恰も正反對で

一は餘りに高く、他は餘りに低く、殆ど沒交渉である。而して此超絶神の思想は、段々極端に走りて、十九世紀の初葉までは、神は天地の始めに於て此の天地の基を創造し玉ふた丈けで、恰も時計作りが、時計を作り出す如く、造り放つしにして、今日は何等關係し給はない。今の地球は神の創造の際に授け給へる惰力で存在して居るもので、曰はゞ一種の器械であるとしたのである。更に云へば神は萬有に超絶して、いと高き所に在まし給ひ、少さい地球の事などは念頭に浮べ給はぬ、限りなき宇宙の上に在まし給ひて、此少さき宇宙の一遊星の事などに携はり給はぬと、神を餘りに偉大に認めたのである。

然るに一方には多神教が稍進歩し、萬有其物が神であるかの如く、思爲した。之卽ち汎神論であつて彼等の考へは極端から極端に行つたのである。しかし之等は決して全く眞理から離れて居るものではない、汎神論にも超絶神論にも確かに一面の眞理があるが、宇宙は之れ丈けで盡きて居らぬ。まだ中々深い／＼隱れたるものがある、宇宙は日々夜々に出來つゝある。夫れを超絶神教の如く天地は幾千萬年の昔に創造し終つた旣に表はれて仕舞つた、と見るのは謬見と云はねばならぬ。又反對に神は天地萬有に遍在してをる。鳥獸蟲魚も山川草木も眞に神と考へるのは之亦淺薄の譏を免れない。吾等は神を宇宙の外にありとする超絶神教を是とし、汎神論を否定するものではないが、又必ずしも汎神論を重んじて禽獸蟲魚を神とするものでもない。

△我等の神觀

然らば吾等の神觀は如何、又吾等が神と交るの道は如何、一面から見れば神は萬有の中に遍在する、吾等は何れの處に於ても神と交ることが出來る。吾吾の先祖が名山に社をたて、大木に〆繩をはりて神を崇拜したのは、迷信のやうであるが、之れにも尊いところがある。彼等はこれによつて神と交つて居つた。富士講などと云つて、富士山を崇拜する者が

あるが、彼の山に登つて天地の神を拜する時は一種云ふべからざる靈氣にふれる。之れは強ちに迷信として卻くべきでない。人心に已むにやまれぬ要求が有ることを示す。彼等は何物をか崇拜して其の衷心の要求を滿足せんとするのである。吾々の祖先は偶像を構へたて之を拜むだ、之れには色々有るが其の最も高尚なるものは人間の形である。吾等は一概に之を偶像教として排斥するので有るが、こゝにも眞理がある、卽ち人間の中に神が宿ると云ふことを現はして居るのである。我國中古の名僧は佛像を彫刻するために、彼等の精神を集注し、技倆を凝らした之は自然崇拜にあらずして人間崇拜である。自然崇拜より更に一歩を進めたものである。然して之れは同時に宗教としても亦た一進歩をなしたるものと云はねばならぬ。

△基督教と小兒崇拜

しかるに吾々基督教徒の中には實に一種獨特のものがある、それは卽ち小兒崇拜である、中世紀の基督教にはマリヤ崇拜卽ち母崇拜が行はれたのであるが、崇拜の中には同時に小兒崇拜が含まれておる。之れは誠に珍らしい事で、東洋の宗教には見出されぬ處、基督教特有のものである。マドナを崇拜するのは女としてに非ず、基督を抱ける母としてである、佛教でも釋迦の小兒の時のことが傳へられて有るけれども、さほど嚴かなものでない。かの泰西に於ける聖母の名畫を見るに基督教の聖母子には實に深き慈愛と共に全世界に向つて命令する權威を示しておる。故に聖母子崇拜の中心は寧ろ基督にありと云はねばならぬ。然り實に基督教に於ては小兒は最も尊い所のものである。小兒が如何に尊ばれたかは、基督御自身が仰せられた處の言葉でもわかる。彼は弟子達が誰か最も大なるものならんと互に論爭しける時、幼兒を側に立たせて、天國に於て大なるものは誰ぞや、汝等嬰兒の如くならずば天國に入る能はじ。爾曹のうち最も大ならんと思ふものは最も少者なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と宣ひ、又たエレサルムに上洛の途上、母親達が小兒をつれ來りてイエスの祝福を願つた時、弟子達は親を捨て妻子を捨て、決死の覺悟を以て旅行しつゝあることゝて、無禮者と唯だ一聲の下に叱咤した。然るにイエスは怒りを含みて弟子達を叱し、小兒等を呼びて祝福せられ、神の國に居るものは斯の如きものなり、誠に我れ汝等に告げん凡そ幼兒の如くならずば神の國に入ることを得ざる也と宣ふた。彼は實に幼兒を以て天國民の標準となし給ふたのである東洋に於ても大人は赤子の心を失はずと云ふ語はあるが、しかし基督ほど小兒を愛し、且つ尊く見られたものはない。幼兒を玩具の如く愛するものはある、然も幼兒の中に尊ぶべく、拜すべきものを發見し、之を尊重し、畏敬するものに至つては餘り多く其例を見ない。基督は此小兒の神々しき立派な所を見出し玉ひ、其の聖き所にふれ玉ふた。否な神になぞらへて見給ふたのである。小兒の中には實にかゝる一面がある。かのオリゲネスの嬰兒の折、彼れの父レオリヌスが其の神々しき寝顔を見て、神に對するの態度を以て之を拜し、匍匐して其頬に接吻したと云ふが、これは大哲オリゲネスのみならず、小兒の顏には多かれ少かれ、この尊き面影がある。我等とても時あつてか之を見ぬではないが、唯何だか云ひ兼ねるのである。實に小兒の中にはエライものがある大くなり得る一面がある。夫れが段々生長するに從ひて、色々な外界の事情や境遇のために汚がれ、又蔽ひかくされるのである。古い話であるが。或畫工が一人の愛らしき小兒をモデルとして天使を畫いた其の後數十年を經て惡魔を畫かんため牢獄に行き、一人の囚徒を見て、それを畫いたが、よく調べて見れば其囚人こそは天使のモデルとなりし愛らしき彼の小兒の成れの果てであつた。これは一つの話であるが、天眞無垢の小兒が、こう云ふ風に變化するのは有がちの事である。夫れを染みなく、汚れなく、其まゝに生長せしめんには、先づ小兒の中にその尊いものあるを見出さねばならぬ。玩具的の愛は決し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て眞に似たり父たるの愛ではない。

基督は小兒の天眞爛熳とした處を、非常に愛し給ひ、小兒の中に、神の聖姿を見出し給ふた。卽ち小兒の天眞爛熳の中に天國の面影を見出し玉ふたのである。こは實に基督教の妙所にして、普通の人々には一寸分らぬ處である。基督は天父の御心を小兒に比し、天地の眞相を小兒に見出し給ふた。小兒の心は實に天眞である、何等の汚れもなく、罪もない。又悲觀もなく、憂苦もない。而して清く、樂しく、快活である。何等の心配がない。然り基督は實に小兒を尊んだ、小兒の中に神を見たのである。彼はわが名のために之を受くるものは我を受くる也。又我を受くるものは、我をつかはしゝものを受くる也と宣ひ、小兒を侮るは神を侮るものとした。そして之を礙がするより、磨石をその頸にかけられて、海の深みに沈められん方倚まされりと云はれた。以て如何に小兒を尊ばれしかゞわかる。我等も小兒を見て己を忘れて恍惚とすることがある。こゝに非常に深いものがある。小兒の無い家と、子供のある家とは非常な相違である。小兒が片言を云へば家中のものが片言を云ふ、實に不思議な勢力である。小兒の居る處には春が湧く、否神が在し給ふのである。天地の深い精神が咲くのである。久しく子供の生れざりし家に、子供が出來る。夫婦は勿論一家一族の心が全く新しくなる。ソコに天地の清いものが出て來て家中を一變するのである。宜なり、泰西の畫家は此清い天眞爛熳たる兒童を畫かんために苦心した。殊に其の聖の聖なる少年の基督を遺憾なく畫かんは彼等の野心であつた。

△小兒の心を抱ける基督

此の小兒の天眞にふれて、其爛熳として清く美はしき所を見開いた基督の精神こそは、實に小兒以上である。この基督の精神が發する時、彼は神の小兒として、アバ父よと云はれたのである。此父と親しんで行く赤子の心が、幼兒の精神と觸れることが出

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

來た。兒童の精神には、時として兩親の汚れた癖をもつて生れるものあれども、其清い朴なところには基督の精神と交渉するものがある。基督の美しい心は神を仰いでアバ父よと云ふ。神を父とするのは神學者の議論でない、哲學者の所謂絕對でない。實に造物者の大原因が我衷に溶けて愛の靈となり互に相共鳴して居る所の實驗其ものである。神は遠い〳〵近づくべからざる不可思議でない。凡てを信賴してアバ父よと呼ぶ時に、神の靈と我が靈とがふれるのである。恰も父母の側に幼兒が安心して凡を打任せて居る如き態度である。ソコに信賴があり、慰安があり、又快活がある。小兒は誠に壯快な快活なものである。彼等には大人の如き、悲哀も不安もない。若しあればそれは病兒である。健康なる小兒は寸時もジットしてゐない。實に無邪氣で、快活である。是れ即ち天地の眞相にして、同時に基督の心である基督と保羅とはこゝが違ふ。パウロは憂き世の荒波に揉まれ〳〵て、酸いも甘いも知り盡した苦勞人で顏には皺がより、頭髮は霜をいたゞいた所が見えるが、基督は頭は黑髮、心は暢び〳〵として一點の罪も汚れもない、みづ〳〵しい健全な精神狀態である神の幼兒である。天國の者は斯くの如しとは即ち基督夫れ自身の精神狀態である。我等と雖も神を信ずればこの基督の淸い美はしい精神に交渉することが出來る、四福音は之れを語つてをる。迷ふべからず、奇蹟がどうだこうだと批判して何時までもさまようてをるのは皮相である。奇蹟の如きも、此基督の精神を領會すれば必ずしも解せられぬものでない。高等批評家のホルツマンが、此見地から、基督が山に移りて海に行けと云はれたのは不合理の樣やうだが之れは小兒の如く壯快な基督であるから確かに云はれたであらう。風波を靜めたこともそうであつたであらう。小兒は向不見である、何事も我心の如くなるべしと信じて疑はぬ、隨分宇宙に向つて戰を挑みかねぬものである。或意味に於て小兒と同じ心的狀態の基督で居らせられるから考へられぬことではな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

いと云つてをるが、説の當否は別として近來の大家をして、如斯基督の精神を解釋せしめた所には、そこに深いものがあると思はねばならぬ。

△基督を通して神と交れ

然り基督の中には確にこの幼兒の天眞があつた。故に彼は神の懐に抱かれ、宇宙の深い、そして快活なる靈能にふれて、神と父子有親の關係を結んだのである。玆に基督教の大事なる所がある。吾々はこの基督にふれ奉ることが、同時に天地の神に交ることである。神と交るの道は瞑想靜座にあらず、又腹式呼吸にあらず、實に小兒の心の如く天眞な快活な心を以て、基督の御心にふれることである。余は未だ曾て面壁九年、靜座默想して、幼兒の心のやうに快活に、天眞になつた人を見ない。夫れは何か得る所はあるであらう。然し何れも死灰枯骨、何等の溫味もなき老人となるばかりである。天地宇宙の本體はざる枯れ果てたるものでない、生々發展しつゝある小兒のそれである。其生々の本源たる神と交るには默想にては駄目である、内省も未だし實に小兒を祝福し、幼兒の中に神を見出した基督の精神と交渉することゝ、之れである。卽ち基督にふれ奉ることは神と交る唯一の道である。人若し玆に至れば、宇宙觀も人生觀も一變する。諸姉よ、基督を通じて神と交るべし。自からが基督となるの心持ちを以て、また基督を標準として人生を見れば、そこは秋風落寞たる秋の枯野にあらず、花咲き鳥うたふ春の野である。そこに神を見奉ることが出來る。この小兒の中に神を見出し、快活な、無邪氣な精神を自覺した、美しい基督の心にふれるの外、眞に神に交るの道はない

（北海道傳道旅行につき師の校閲を經る能はず　靈山生）

湖畔雜吟

茅野雅子

一

白樺の木立を出でて、
湖の青きを見れば、
もの思ひ凡て忘れぬ。

女のみ知る愁をも、
言葉にはいへぬ思ひも、
湖は知れるが如し。

譬へば、母のごとく、
かの聖マリアのごとく。

二

青田の中の水くるま、
音もきりきり水くるま、
夕日の金に染められて、
涙をながす水くるま。

三

嘴赤き小さき鳥
我が立つ湖のほとりの
梢にうたひ止みて、
静かなる水に見いりぬ。

我と同じこころを、
鳥も感ずるにや。

波も無き真晝の湖の
この深き寂寥を、―ニルヴナのこころを―

やがて鳥はうたひ出でぬ、
されど我はいつ迄も默さざるべからず。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

世界の舞臺より見る日本人

高田畊安

△人種といふ問題

日本人は世界の舞臺に出して見ると、いかにも色が黒いですな。漫遊前は御婦人がお白粉などをして居るのを見ると、不自然で美しいとは思へなかつたが、外國に居ると、日本の御婦人などは、せめてお白粉でもして居らなければ、西洋の婦人と幷らべてとても見られないと思つた。内地に居るとそれほどにも思はないが、外國に行くと時々人種といふ問題が頭に上る。そして黄色人種の日本人がとにかく世界の一等國の列には加はつたが、果して永久對等の地位を保てるであらうか否かといふ疑問が起つてくる。先づ第一身體がとても彼れに及ばない、白皙人種は色といひ、形といひ、大さといひ、誠に立派に出來て居る。それに比して日本人は遙かに身丈は低し、容貌も美しい方ではなし、その上に色が黒い。尤も昨今大抵の家で、親よりも其子女の身丈は高くなつて居るが、筋骨の太さに於ては、其身丈に相應するや否か未だ容易に斷言しがたい。目下の所、白皙人種に比して筋肉の力が弱いから、勞働力に於て劣つて居る譯である。又精神作用、即ち智德の上に於ても身體強壯ならねば非常に不利益である。併し日本人の頭腦は比較的大い。而して精神作用の上には白皙人に劣らざるを得る見込みがある。

△果して對立し得べきか。

今日の優勝劣敗の世の中に於て、白皙人が自身で一番偉いと自覺して居る事はたしかである。他の人種の中で人間らしく見なして居るのは、土耳古人、アラビヤ人、日本人位で、殊に日本人は恐らく白皙人種以外の最も優れたるものと認めて居ると考へられる。彼れ等白皙人は、土耳古人、アラビヤ人に對して、一向同情もなければ、畏敬の念もない。我々日本人ももし露西亞との戰爭に勝たなければ、支那人同樣に取扱はれて居つたかも知れぬが、あの强國に打勝つた事によつて、敬愛の念を生じて居る。併しこれは大多數の無邪氣の人の事で、ひたすら自國の版圖を擴張しやうと務むる第二義の愛國者は、稍もすれば日本を誹謗讒誣して、日本人の品格を傷けやうと企つて居るので、日本の事を話すにも、兎にかくにも、わざと卑しくして見せるので、吾々心ある者は實に不快に感ずる。之に反して第一等の愛國者は神を愛し、人を愛し、國を正義仁愛で擴大しやうとするのであつて、善正なる基督人士中に斯る思想を發見する事が出來る。我が國は一等國になつたとは云へ、彼れ等の如き頭の發達した人種の間に立つて、國際的の大人物と許さるゝ人は、殘念ながら未だ指を屈する程しかない。今はまだ距離が遠いから、優勝國の影響を蒙る事は少いが、接近すればする程、第二等の人種が第一等の人種と對立するといふ事を努力しなければならぬ。これには人種の改良が必要である。

△人種の改良

獨乙では近頃黑人と結婚することを禁じた。之に對して議會では之を嘲り反對して居る議員もある。そして既に結婚して居る十數人を如何するか。此勅令は既婚の黑人婦をして賣笑婦化せしむるものならずやと論じて居る。併し人種愛護の爲には、劣等人種と結婚させぬといふ事も一方法であらう。多數の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

獨乙人は日本の藝妓を稱美して居る。併し吾同胞が彼の本妻たるは、彼國内に於ては只一家族である。是本來結婚の機會罕なるにも因るべけれど、未だ對等に達して居らぬ一徴候とも見ることが出來るであらう。然し本來黄色人種は智に於て、德に於て、決して劣れる人間ではない。その本領を充分發揮して行けば、決して彼れに劣らぬ資格ありと信ぜらるゝ幸に黄色人種は支那に四億、我が國に六千萬の多きを數へ世界の人口十五億の殆ど三分の一を占めて居る。支那もどうかこうか獨立の位置にある事であるから、この人種が互に道義的に一致結合して行けば對立が出來るが、それを怠れば白皙人種に家畜同様に取扱はるゝ様にならぬとも云へぬ。どうも教育の少い國民には國家の爲めに力を協せて働らく念慮に乏しく、同士打ちが多い。國家を思はずに只自身が餘計に利を占めたいと思ふ處から、日本人相互に惡口を云ひ、信用を落し合ふて居る。これも單に教育のないものゝ中にあるのみならず、我が國の道德の標準となるべき宗教界の先輩の間にさへ往々ある樣である。時には意見の衝突もあらう、堂々たる君子の爭ひもあらう。併し各の念頭にわが民族の發展、わが日本帝國の發展といふ愛國心が土臺になつて、この土臺の上に立つて相爭ひ、相磨くことを心掛けたいものである。

△愛國心の鼓吹

獨逸に於ては、一般愛國の念慮が餘程強く、中學に於て、皆ゲーテ、シルレル等愛國の血の漲つて居るものを讀む。世界の競爭場裏に於て、一旦倒されたら、印度のやうにもはや再び頭の上ることはむづかしい。それ故永久彼れ等と對等の地歩の土臺を築くには、どうしても我が國民の間に、一層の愛國心を養ふことが大切である。これには精神的の準備を要する。この精神的準備の効力は中々大なるもの故國民中の母たり妻たる人々が、その心掛けを持つて、人々の心の奥深く愛國心を植ゑ付くる事が大切

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

である。日本が琉球を取り、臺灣をとり、支那に勝ち、露西亞に勝ちしは、精神的の準備が遠き昔からあつたのである。又獨乙が佛蘭西に打勝ちしにも大に精神的準備があつた。目下獨乙は外國に發展することの爲に同じく精神的の準備をなしつゝある樣である。而して彼の國の牧師等は丁度日本の小學校教師が、兒童に忠君愛國を説くやうに、國民に向つて天意に叶ふて永生することゝ、國家及び同民族を愛重することの觀念を盛に鼓吹して居る。

△美しき學風

尚一つ私はベルリーン大學に入學して學生生活をして居つたので、彼の國の學生生活をよく見ることゝが出來たが、暑中休暇、年末、年始の休暇、復活祭の休暇、降誕祭の休暇、學期前後の休暇を加ふれば一年の半分は休暇である。ライプチヒの或教授が、「學期は休暇の不快なる間歇である」と云ふた樣に、いかにも休暇が本體で學期が添え物になつて居る感がある。然しその短い學期に多くの效果を擧げて行くといふのは何故かといふに、教授が材料を多く集め、よく選つて之を完全なる方法で説明するし、學生も休暇を利用して、自分で自由に圖書館や研究室で勉强する。それ故學生に無駄な骨折りがなく、且つ自由に學力を發展する事が出來るのは、いかにも羨ましい學風であると思つた。

近く函館の某氏より海老名夫人に寄せられたる私信の一節

「前略」去る九日には先生（海老名牧師）御恙なく御着函遊ばされ、非常に嬉しく拜眉の榮を得申候。前に御目にかゝり候節よりは、頗のあたり、稍白くなられ候へども、不相變御壯にて喜しく存じ申候「中略」一回の公會堂の集會にも、二回の教會の集會にも缺かさずに來り候人々少なからず候。當地の函館新聞の主筆長谷川氏の如きは妻子を擧げて教會に赴かれしが、その爲に佛教信者なる母君「コンナ事になるなら早く死んだ方がいゝ」と嘆かるゝ樣な悲劇を生じ申候。然る處母君の親しき仲なる老婦人が「名高い方のお話の由なれば左迄仰せられぬがよからむ」となだめ候由、實はこの老婦も數ヶ月前はその娘が信者になりしを立服して家より追ひ出さんと迄したる方故、一層面白く御座候云々

夏の祭（承前）

文學博士　姉崎正治

△祭と咒

また或處ではこの日に植物を取つて來て、之れをもと〻して祭りをする。山に行つて植物を取り、歌をうたひ、踊りながら歸る。そして藁を集めて火を焚き、各手にせるその花を投げ込めば、その灰の降りか〻る範圍は豐穰であるといふ。この火に投げ込むといふのが、夏の祭の大切な事で、埃及、アッシツヤにかけて行はれた。歐州ではアドミスの祭といふ名でせられて居る。これはアシタルテといふ生殖の神が非常に愛して居つた若い男のタニムーヅといふが、狼に食はれて死んで終つたのを、これを戀ひ慕て四つ國に探しに入つたといふ、その神を祭つてある。これは植物を火に投げ入れると同じ信仰である。殊に村少女が火に植物を投げ入れて、オイオイと泣き、次の日に復活祝ひをする事がある。植物は榮枯盛衰のあるもので、一旦枯れたものもまた復活するからである。或所ではヨハネの日に火の兩側に椅子を並らべて置く。これは植物の靈が來つて腰掛けるのであるといふ。日本でお迎へ火、送り火などゝいふのと同樣である。またこの火を燃して飛びその高さによりて、權兵衞、太郎兵衞の家の作物を占なう事がある。權兵衞は誰れよりも高く飛んだから、今年はあの家の葡萄は丈け高くなるのであらう

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

といふ風に占ふ。また或地方では火の兩側に男女があつて、ヨハネの日の草花を手に持つて投げ合ひ、それの丁度よく當つた男女は緣を結ぶといふ婚禮の呪にする事がある。これは結婚といふ人間の成長と、植物の成長とを一つに見たのである。またその日に集めた草花を枕にすると未來の夫を夢むとか、その日の日中、寺の鐘の鳴る時、玉子を水に入れ、その黄味の散る時夫の顔が出るとか、その日に川柳のうつる水を見つめると夫の顔が見えるとかいふ。この日は人間の繁殖に關係して、家畜の繁殖をも計る事が出來るとして、牛や馬にヨハネの火を越えさせたり、或は山上で動物を集めて燒き、或地方では蛇を集めてやき、或地方では兎を集めてやく事がある、蛇は惡魔を拂ふ意味であらう。

流燈　横山大觀筆

△水と人間の運命

また中夏の日に植物を取つて屋根に載せれば、雷避けになるとし、また或地方では茅の輪に火をつけ山上から落す、その火の舞ひ樣で占ひをする事がある。火の輪は日輪の囘轉するシンボルである。日本では盆の祭に燈明を主として用ふる。印度に燈明祭といつて十月頃行はるゝものと同樣である。先年横山大觀氏が印度乙女が燈籠の行衞を眺めて居る鮮やかな繪をかゝれて、文部省展覽會に出品して、非常に評判を博した(挿入の寫眞流燈參照)印度では日本の盆の頃は雨期で、十月に入つてから晴れると共に夏の祭りをするのである。この祭には水邊に出でゝ燈明を水に流し、その影の消えて行くのを見て運命を占ふといふので、日本で盆の流し燈籠といふのと同樣である。暑い最中水邊に出でゝ水にキラ〳〵映る燈籠の影を見る事は愉快なものであらうから、今は一つの慰みとして行はれて居るが、もとの意味を考へると、我々の生活が天地と一つになるといふ信仰である。人間の生活で困難、且つ不思議なのは運命である。今迄經て來た過去も不思議であるが、將來は眞に一寸先きも闇である。昔の人はこの不思議に對する念は更らに多い。例へばヨハネの日に占をするが、畑の麥がよく出來るか否かは人の知るべからざる事で、天に祈るより外ない。婚禮も不思議である、日本では出雲の神に依託するが人々も「不思議な御緣で」と挨拶する、我々は自分の運命を自分で計る事が出來ない、先きは渺茫として計り知る事が出來ないが、それを一番よくあらはして居るのが水で「行く川の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」といふ樣に東西水に對して運命を思ふて居る者が多い。水に對しては詩人ならぬ者もまた不可思議の感に打たれ、彼渺茫たる先きに理想の鄕があるのであらうと思ふ。それ故蓬萊島とかアトラントチックとか、水鄕を以て東西とも理想圖を作つて居る。

△美しき祭の意義

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

要するにかやうな祭を今から見れば迷信のやうな、つまらぬ事に思ふが、然しながらこれを行ふたもとの心を思へば、我々は天地の動植物と共に生活する。丁度草木が春に芽を出し、夏に繁茂しても、秋が來れば散つて行くが、來年はまた戻つてくる。七度轉げても七度起きて、人の世は次第に變轉して行く。そして自分はその不可思議の天地の一部分となつて、運命に任せるが、また行先きを見屆けなければならぬ氣もする。これ等の精神が祭にあらはれて居るのである。(文責記者に在り)

ほうづき

和子

草もなき　十歩の小庭
雨に見れば　丹波ほうづき
二つ三つ　朱にいろづきて
寫生せんと　弟の繪筆取り出す

炎天

炎天風ありぬ栗の葉そよぎ
小川さへさゝら波立つ
さはれ眞晝夏の最中を
黄金羽の胡蝶ぞあへぐ

紫蘇

紫蘇の香の背戸に滿ち滿つ
この十日小雨つゞきを
伸びし葉よ晴れ間につまん
土用なり丑の日近き

エリオット博士と語る

廣岡淺子

エリオット博士の來阪せらるゝや、七月廿一日夫人及び孫孃を私宅に招き、午餐を共にし、午後は博士も秘書官ビヤース氏も來訪せられ、庭園にて家族と共に談笑して、凡そ一時間半斗り樂しき時を費しました。然し博士には寬々とお話を伺ふ暇がありませんでしたので、特に時間を都合していたゞく事を願ひました處、博士は快諾せられ、その日より兩三日奈良に靜養の積り故、その間は他の方には面會致さぬ筈、もしお訪ね下さらば、悦んで御面談いたしたしと、謙遜なる態度をもてお答へ下さいました。それ故二十二日午前十一時の汽車にて加藤直士氏を通譯に願ひて同道し、奈良のホテルに參りました。折節博士は外出中で暫時待つて居りますと、十二時半頃歸られましたので、刺を通じて面會を求めました。すると博士も夫人も孫孃も共、客間に見えて、私の訪問を喜ばれ午餐を共にせよと申されましたが、自分は既に濟して居りましたのでお斷りしました。三四十分の後再び博士と夫人とは客間に參られ、極めて打とけた態度で、何なりとも御尋問にお答へいたしたしとの事に私は我が國の國民道德の根本問題に就て、別項記載のやうな事を伺ひました。この對談中、誠に敬服いたしましたのは、私如き無學の一老婆の問ひにも、非常なる熱心と尊敬とを以て篤と耳を傾られ、通譯者の言が此處は意が通つて居らぬであらうと思はれる點は、再三尋ねられて扨て暫らく瞑目して愼重に考慮を囘らし、後明確に、卓見を語られます。崇高なる博士の人格を飾

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る謙遜と愛に充ちた態度や、また深遠雄大の議論は到底筆に寫すべくもありませんが、只老婆の記憶よりひき出したる二三を左に掲て讀者諸姉と共に永く博士の來朝を記念致したいと思ひます。

エリオツト博士と其手蹟

△國民道德の基礎

現時世界を通じて、國民道德の上に困難なる事は男女の貞操問題である。貞操の必要は獨り女子に限られたるが如きも、是誤れるの甚だしきものにて、却つて男子が貞操を守るこそ、現今最も緊急の要にしてこれ國民の道德の根本義であり、國家の安全を講ずる道である。故に今日米國の或る方面にては、姦淫罪を男女公平に罰すべしとの義が唱導されつゝあり。余が思ふに東洋の國民道德の改良には、最も右の點に注意するの要ありと思ふ。如何となれば東洋には男尊女卑の惡習慣久しく存するが故に、一方に於ては女子の教育を高め、貞潔なる意志を益々養ひ、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭改善の任に當らしめ、他方に於ては法律を改正し男子蓄妾の弊を廢せざる可らず。要するに是れ等社會改善の必要を充さんが爲には、國民の道義觀念の根本を、宗教思想の上に樹立しなければならぬ。

△純粹なる宗教思想の養成

宗教問題に就ては余はユニテリヤン故、他の多くの宣教師等の説く所とは大差あるべし。然れども之れを忌憚なく申せば、今日の基督教は信條とか教理とか、其の他多くの後世の附加物即ち希臘、埃及、羅馬等の哲學、或は傳説に起原を發したるものが、基督の基督教に着色して、夫れより多くの迷信を釀す恐れに陷りたり。然れども二十世紀の宗教はかくの如き教理を脱却して、神聖なる基督教に戻らざるべからず。宇宙に只一つの聖なる神、即ち天父あるを知り、その下にある兄弟姉妹なる人類を愛し、進んで社會人類の爲め自己を犧牲にしたるイエス、クリストの圓滿完全なる人格を通して、天父の意志を體得し、國民教化の實を擧げ、世界平和の實現を計るにあり。余は日本國の將來に、かくの如き神聖なる基督教の光明を見るに至らん事を期待す。然し特に一言を添へたきは、稍もすれば人或は東西宗教の道義教訓を合して、新宗教の生れん事を期待するものあれど、そは到底不可能なる事たるを免かれず。如何となれば宗教には道徳的教訓の外に大なる要素あり、そは道徳の原動力なる絶對者に對する信仰にて、基督教にては之を天父に對する愛と云ふ。而してその愛を實現したる空前絶後の大人格たるイエスクリストの感化により茲に二つの大切なる要素を生ずるに至る、一は彼を信ずる個人個人の人格を高尚ならしむる事にて、古來多くの聖賢が斯教の感化の下に輩出したり。二は人類一般に其感化を及ぼし彼れ等を幸福ならしむる事にて、斯教の感化を早く蒙りたる西洋各國は、その恩惠により國家をして高潔なる進歩發達をなさしめ漸次善化の跡を殘しつゝあり。云云

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

森の家より

たみ子

○

こんもりと茂つた青葉がくれに、朱の鳥居が見えて苔むした石燈籠がところ〴〵。玉垣に添ふて流れるせみの小川の石橋を、白地の手拭姉さん被りにして三布前垂に友仙の襷、青とうがらしの一ぱい入つてる笊を持つた女が一人、しよなり〳〵と渡つて行きます。

あれ、閑古鳥が、山鳩が。耳をすませばさら〴〵と囁くやうな水音も手に取るばかり。

今、かうして一人、伊豫簾のゆらぐ窓に凭つて、かうした景を眺めて居ると、何だか此の身は、遠く現實を離れた平安朝時代の人でもあるかのやうな心持がして恍惚となつて仕舞ひます。

此處は京都の片ほとり、玉依姫を祇つたといふ、加茂の社を前に控へた、森の中なのでせす。

黄塵萬丈の都の中、渦まきかへる生存競爭の激しい浪に、揉まれ〳〵て身も魂も、疲れ果てゝお仕舞ひになつた時は、暫く此森の中に、靜に憩んで御覽なさい。

神代ながらの古樹の梢に高く、絶えず葉ずれの音がして、冷たい風は、胸の底の、底の塵まで、さらりと拂ひ清めます。

不斷に湧き出る御手洗の池から、溢れて流れる、氷のやうな小川の水に足を浸して、お洗濯などする時の氣持。おゝ、いゝ心地と云ふより外、愁も怨みも涙も笑みも、何もない胸の中。無念無想の境涯などいふのは、かうした折の心持なのではないでせうか。

○

仰げば、銀河の影鮮に、冴えた夜を、あの神さびた森の奥に、紅提燈がちら〴〵と、葦簾の陰にさんざめく三味の音、颯と一陣風が吹けば、鮎やく香

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

や天ぷらの匂が四邊にみちて、こゝは浮世の歡樂の境、京の人々は夕暮からかけて夜毎に此森をさして涼みに來るのです。

　青白い光りがキラリと、一の鳥居の邊に現はれたと、見るまもあらせず、ブウツ〳〵と妙な聲でうなりながら妖怪のやうな眞黑い物體が……………あゝ自働車でした。恰度、宅の前でとまると、艶しい聲が姦しくきこゑて、ひらり〳〵と裾をひるがへして飛び下りたのは、夜目にもあでやかな舞妓の一むれ中に男の人が一人、千鳥足のよろ〳〵と、左右から女等に手をとられて、ふざけ會ひながら、紅提燈の方をさして行きます。同じ小逕を、此方へ來るのは野良歸りらしい夫婦づれ。

「ほんまに美しい舞妓はんやな、祇園どすやろか。」

女房が云へば

「なアに、狐の化けたのや」

アハヽ、オホヽと、笑ふ聲が、森の外へと消えて行く、と又一しきり冴え返る三味線の音。

眞夏の編輯室

某新聞婦人記者

○凡そ世に生きとし活けるもので、安樂を欲しないものがありませうか。骨まで凍りさうな冬の夜も、肉の蕩けさうな夏の日も、辛いと思ひ乍らも孜々として働くのも之が爲め、齷齪と働いて行く中にはと唯一ッの望みの綱に引かされて、細く長く働く人も此望の爲めに國も人もないと迄我慾を張つて非望を計企てる太く短い事を働く人も、煎じ詰めれば皆此慾を望むばかり。日々の行爲にも一日でも多く樂をし度い、一時間でもと、樂な處に少しでも長く身を置き度いとあせつて、陋劣な事をする例も少なくはないでせう。

三日乞食をしては忘れられないのも同様に、もし三日間安逸の境に身を置いて御覽遊ばせ。たつた三日の習慣から放れるには一寸努力が要りませう、夫でも遠慮のない弱い聲に迷はされて、何となしに惰くなつたり、倦きたり、果ては大事な務を疎かに取扱ふ樣な事にもなりませう、

身體中の血が沸えくり返りさうな夏の最中、ともすれば鈍り易い心の帶、引締め〳〵チリ〳〵と照りはたゝく空を眺め乍ら、職務に出かけなければと思ふ瞬間には、六十日間兎も角も職務の義務の責任のと言ふ字を頭から放して、好き放題に休息の出來る學校の教師は樂なもの、羨ましいものと考へます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

一度は私にも然る夏もありきと昔を心に呼び返す時に、弱々しくも悠々自適の安樂境で目を閉ぢて、聞いた小河のさゝやめきも鶯の遠音も、巨巖の下に「エホバは我が岩」と稱へた有様を繰りひろげて嗚呼と暑さが一入恐ろしい氣になりますのも、矢つ張り三日乞食の例にもれないのだなと我と我身を鞭ちます

○

男の方ばかり居並ぶ中で音を立てまいと足音を忍ばせてそつと窓際の自分の席に就く。此處は西向きの午後の陽は遠慮會釋もなく向ふ机の上に這ひ上つて來る。瞰下ろす目の下にはトタンの屋根は溶けよと計り照り附けてる隅に熱を吹いて來る。窓を開けば工場の煤が我勝に膝に飛下りる、四邊の人々は洋服の襯衣を腕迄も捲くり上げて、腕つこき筆を揮つてゐる。幾箇かの電話が代り／＼に鳴る。耳元では今起つた事件の報道を電話で聽き乍ら「ア、モシモシ其人は死んだのですか、ハア生命危篤、加害者は捕まつた、ハア／＼」と言つてるかと思へば、又一方では米相場がどうのかうのと、他處で想像出來ない忙がしさです。午後の五時に出來上る一版から輪轉機が嚙み出す何十萬枚、市內版の刷り終る頃は東京市民が熱睡の床に夢圓かな眞夜中思ひながら默つて手際の素速さに感心計りしてゐる身には、樣々な敎訓が心の中の更に深く中に喰ひ入る程勿體なく思ふ事ばかりです。從つて職務の貴さを覺えます、

○

此れ丈では私の隅居は何だか太して苦しいと早合點なさるでせうが、夏は吹き送る電扇の涼風と、冬は抱へる火鉢と室內を溫めるストーブ、何不足がありませう、電扇と火鉢とが夏冬の差別をつける丈けで、此處に三百六十五日社會人道の爲に盡す職務には夏冬の差別も何もありません、昵として居ては機會を失ふ廢れの生涯は却々に迂濶には居られませんから、夏の最中も厭はゝこそ、好きも嫌ひもあらばこそ、慾も德も忘れて各自が働く譯なのです。

長らく小さな學窓から見て居た想像は全然外れて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

現實の世界に　學ぶ可き事の數々、世の中を少しは知つてると思つた身は知らない事ばつかりなるに驚く事も日に幾度、そこで「自から知れりと思ふ者は其知る可き程をも知らざるなり」とは眞實記憶せねばならない金玉の語とつく〴〵思ひました、

○

前に歸つて、敎師が强ちに夏休には樂ばかりが出來るとは申ません、が若し無爲に其日を送る人があるとするならば、當時のせち辛い世の中に、年がら年中働らく人の苦勞も思ふ必要があると思ひます。銷夏の何のと考へるのも勿體ないと思ひます。這般も或學校で窮民に施米の擧のあつた時校長自から出て、校友會員某といふ屈指の富豪の夫人、何々子爵或は男爵の各夫人方が襷がけで此暑さに玉なす汗を拭ひも敢ずに垢面蓬髮の人々を劬はつて、懇ろに扱はれた態が如内にも麗はしくて幾度となく私は曇る眼を拭ひました。

暑い、眞實に幾度繰返しても暑い今日此頃、適度に働いて一日の終りに今日も恙なく働いたといふ念を懷いて、靑葉の蔭冷やかなあたりに凉を納れた時程の快心は、恐らく骨折を知らない人の味はゝれない處でせう、

〔うめくさ〕

先づ海膽の殼三つ、だん〴〵形の小さいのを採り一番下にする殼の口の周圍に濕つた石膏粉を塗り、其の上にのせる殼の底の孔は、下の殼の口の大きさ程に擴げ、間にはどれも石膏粉を塗つて重ねると、小さい花瓶が出來上ります。

又海膽と恰好のいゝ海燕で可愛らしい蠟燭立が出來ます。海膽と海燕を着けるのは、やはり石膏で致します。もし仕上げを少く立派にしやうと思ふならば、海燕の一つ丈けを手に殘して、あとは一つ宛、眞鍮の鋲を足にするのです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏の朝

しのぶ子

「ヨブ（子供の名）よーう」
といふ聲が水を流れると、
「オーイ」
と子供らしい返事が水を掩ふた青葉の中から聞ゆると思ふと、棹を片手に坊主頭を露にひからして十二三の童が、手輕に小舟をあやつって出て來た。
「舟を貸しておくれ」
「どこへ行くだア……こなへに早く……」
ヒラリと飛んで岸の叢の中に立つたヨブの頬に露がかゝつてゐる。
まだ若い曙が武藏野の草の夢をとかして、紅、淡い頃である。
「川上の御宿に白い花をとりにゆくの」
ヨブに庭下駄をわたして跣足のまゝ先生に助けられて舟に移ると、舟はユラ〳〵と動いて岸をはなれた。
先生は白いシャツ一枚、歌をハムしながら、棹を深くさしてはスーッと扱く。露の玉の樣に散るしぶきが、薄い浴衣着の肌にヒヤ〳〵として居る。姉樣かぶりにした手拭の濕つた布目から、和い光線が綾になつてもれてくる。
舟は優しい音をたてゝ、綠の中の銀の水を分けてゆく…………歌は棹から散る玉しぶきと共に水にこぼれる。
「あの黑い森、あの中にお宿がある」
見るとこんもりと繁つた森の中に、水の行衞が消えてゐる。
「白い花が浮いてゐる所？」
先生はほゝえみながらうなづいて棹をグッとさすと舟はグルリと廻つて枝と枝との中に葉づれの音をさせて入つてゆく。棹が枝にさはる毎に時雨がふる。
濃い綠の木の葉からもれて來る日光が、若い青草

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

にからまつて、そこに新しい活きた色が動いてゐる。赤い、古びた鳥居の前で舟はとまつた。水の上は一面青い葉だ。

「花が見えないのね」

「そう／＼そんなにあるぢやないか、葉の陰にまだ眠つてゐるんだ」

ずつと側までゆくと、葉の陰に白い可愛いゝ花が水の上の夢にうなづいてゐる。中には少し開いて上からの露にうなづいてゐる。中には少し開いて上からの露を含んでゐるのもある。

「マア、可愛い……」

私は冷い水の中に手を入れて手折つては舟の中の小籠に入れた。花はすぐ籠にみちた。

「家へつく迄には枯れてしまふよ」

「いゝわ、そしたら又この水に流してやるから」

歸路は舟を水の流にまかした。

私は花の籠を水にひたしながら、昔の夢さめるのをまつてゐた………

○　○　○　○　○　○

井戸邊で洗濯をしながら、こんな夏の朝を思ひ出した。

茄子籠

里の子

茄子籠に白日の光かゞやきて照り映るらんか濃き紫の

紫の色なつかしき茄子畑に秋風吹きて花落なんとす

秋風に紫匂ふ心地して茄子畑多きふるさとの村

茄子畑に草しげるまで實のらずて今宵この月雨なきものか

紫の茄子の花とりかざしつゝ里の乙女のひな歌の聲

キャンプの夏

小此木松子

○去年も行つたキャンプの夏の忘れ難くて、身を北行の汽車に投じたのは、夏もまだ珍らしい六月の初めであつた。

夏場を命の、とある宿場で、湖水通ひの小蒸氣に乘り移ると、はや北には、ホワイト山脈が聳えて、身は、スクワム湖上に浮ぶ。中禪寺湖や蘆の湖をのみ愛でた眼には、此スクワムが恐ろしう大きく思はれる。それでも此國に名ある湖水の何々の樣に何十哩を數へるのではない。

美くしい綠の島の浮む間を出つ入りつして、船は途々のキャンプに休む。船頭共の氣の長いのが、己に物珍らしく、遠く都を離れた事を思はせる。彼れが何島、此れが何と、去年の記憶を忙がしく繰り返す程に、夢にまで見た我等のキャンプも、遙に見えた。岸頭高く白いのは目徴の旗、建物の屋根が、あちこちに、顯はれるばかりで、天幕の白いのは隱れて見えない。丁度午後の水泳の今盛んな頃、近づくに連れて去年見覺えの人顏も分る。はや日常の生活とは百年を隔たかの感がある。

○明け放した天幕の戶から、冷い風の音づれて、キャンプの朝は、いつも早い。霧もたゝず、風も動かぬ曉方、樹も水も眠つた樣な五時前後には、湖面は小波の影一つだにない。そして岸に立つ白樺の樹、松や蔓や、下草までも、一つ〳〵、影を寫して、じつと身動きもしない其靜かさをキャメラに入れたいばつかりに、幾朝か、眠い眼をこすつては、竊む樣

に小舟を漕いだ。時々は、昨日の儘の、濡れた水着に顫え〳〵勇を皷して水に飛び込む。切れる樣な冷たさも初めの程で、少しザブ〳〵する中には唯快い朝の活氣に充されるばかり。

○秋近くなつてからの朝々は、薄霧を透して見る岸の紅葉が、繪の樣になる。起きぬけに、舟を出して、靜かな水の上を滑る樣にゆくと、「松島に繪筆を加へた」と誰やらがいはれた此湖邊には美くしい入江がおほい。細い水路を巧みに通つて岩や島やの間を拔けると繁みの中に燃える樣な枝や蔓やの水に垂れた音なき小湖を見つける事もあつた。

○キャンプの食堂に充てられたのは、岸邊の岩に近く建てた四方開きの木造りで、屋根と床とを取除けば戸外と異る所も無かつた。清らかな卓子を並べて優に五六十人を容れる事も出來る。朝の螺貝の合圖につれて、彼處の家此處の天幕から三々五々老幼男女の避暑の人が、此に集る。都での富者も學者も、此處では、同じ山住居の輕裝に、心も輕く、睦み合ふ美はしさは是れも自然の賜物であらふ。一面家族の樣に、而も個人の自由を牽束する事は無く、自然の秩序禮儀を保つて暮してゆくのが得難く崇く思はれる。

米國ニューハンプシャ州

アスクワム湖畔

　此食堂に就て忘られぬのは、外套欲しい雨の夜々であつた。大きな石爐には丸太の燃える勢がすさまじい、白布を張つた障子越しに雨の音を聞きながら、取立ての唐もろこしなど燒い

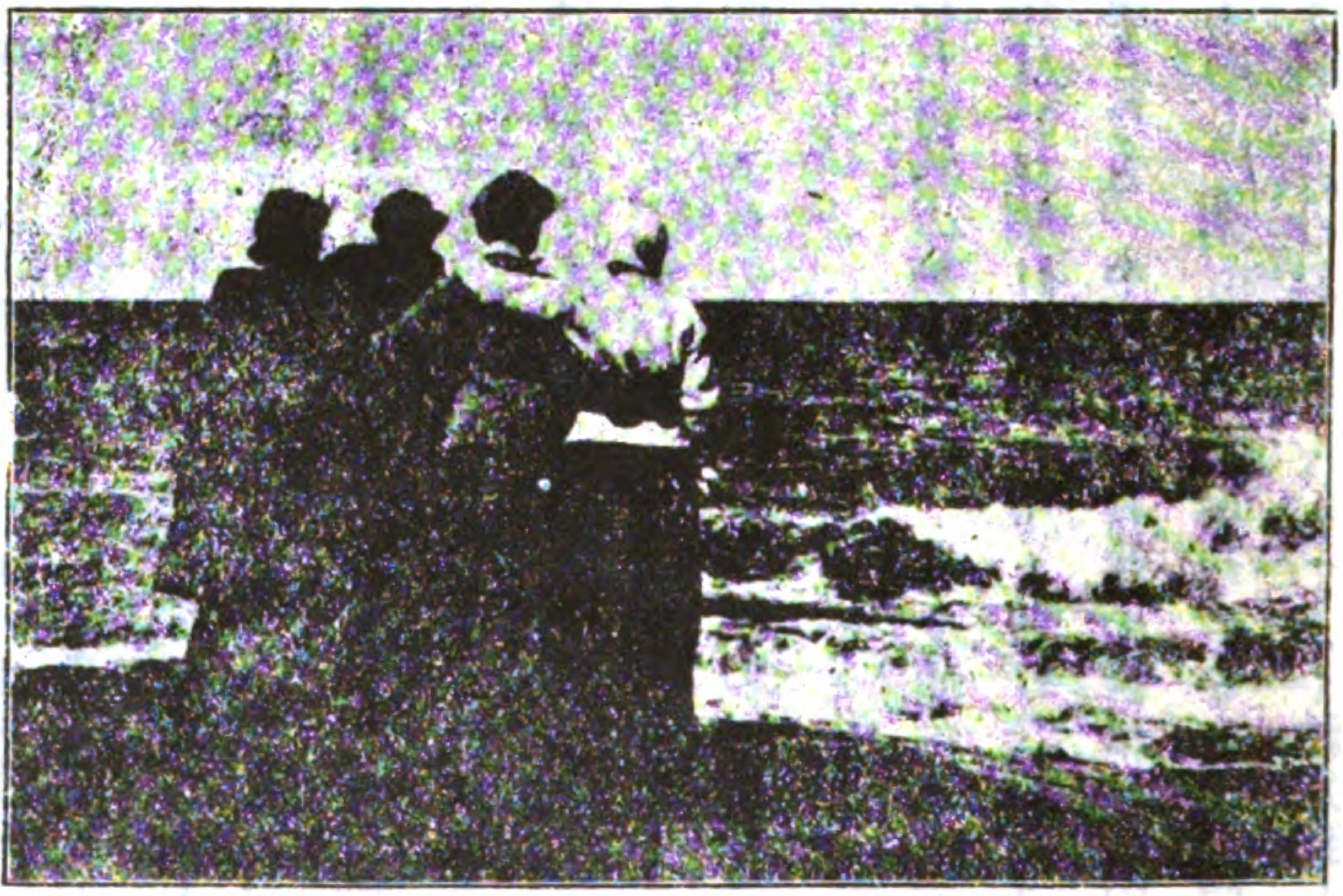
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て話に花が咲く。遠く南米からの家族もあれば、軍人教師、銀行家とあらゆる階級を含むだ茶話はいつも面白いものであつた。

○照りはたゝく日中の外は、毛糸の上衣など着る事が多かつた。大小いろ／＼の子供、手に／＼バケツ提げて裏山に苺あさる。さうすると瞬く間に何十人かのパイの材料が堆く臺所に持込まれる。底く匐つた、ブルーベリーの紫色の玉の樣に光つたのも鄙ひて可愛らしいものであつた。此裏山から續いた野には、紅百合おほく、夏草、秋草には事缺かず卓子を飾つた。初めの程は花摘みの道に野飼ひの牛や羊が怖しかつたのも可笑しい。

○隣りのキャンプまでは小一里もある。稀に、男裝し

同



マサチューセット沿岸

た白姓の神さんが野菜物乗せて來るばかりで社會の風は一向に吹かない。見る人も無ければ午後の日盛りを水着の儘で、岸の松原に落葉の上で暮す事も多かつた。冷やかな森のかほり、小砂利を嚙む水の音、處々樹蔭を洩れて、積むだ松葉を金色に光らせる日光、山なればこその靜寂を破るものも無い。本にも飽き、靜臥にも倦むで、小石のきらめく水の中に身を浸すと、山の蔭、樹の蔭がゆるく動いて、覺束ない蛙泳ぎを笑ふ樣にも見える。偶々沖を通るのは、一日に一回の郵便船、あゝ、都會から便りもと露の滴る身を上げて波止場へと急ぐ。

○夜は岩間に焚火して、里人の歌に更くるを忘れた事もあつた。里人はそれ／＼身分あるものが、自活

の爲に夏分此處に雇はれたので、朝に夕に臺所には歌聲が絶えない。そして其輕い悲哀の調べを歌ふ聲が、また優れて美くしい。月のよい夜なぞは彼等も亦獨木舟を操つて、水に浮むだ。そうして其歌の聲がゆるやかに水を傳へて我等が野營の島々に流れて來るのを屢々聞いた。强く透る女の聲も捨て難いが、低くすむだ男聲の落ちつきは、今もまだ耳に響く。
○月夜の野營も亦、雨の無い國の恩惠であらう。老婦人のざなたかを監督者に願ふのも、難かしい事ではなかつた。毛布など一枚づゝ舟に乘せて、思ひ寄る小島に上り、松葉の上に一夜を明す。天幕の眠りとはまた異つた趣があつた。

かうして長い三月を過して、讀むだ書物の數も積り、新な友との親みも濃い、九月半ばには馴れた山愛した水に泣いて別れて南に還る事となる。やがては、紅い樹の葉も落ち、キャンプも淋しく閉ぢられて、こゝ半年は吹雪の中に埋もれる事であらふ。

草花の保存法

此の保存法には色の濃い花が適しますので、白は黄に變色し易いのです。實驗致しました内では、薔薇、菊の類、殊に雛菊は極く手際よく出來ます。それで茲にも菊について申して見ませう。

極く細かき白砂二三合をよく／＼洗ひ、少しも水の濁らぬまでにし、竈の鍋に入れて水分を除き去りよく乾燥して、冷えたる場合に深き箱に七分方盛る花も同じく少しも濕氣なきやう注意して、その莖をもうけの砂中にさし、葉も花瓣も悉く落ちつくまで他の砂を少しづゝ徐々に花の上二寸程積むのです。

花全體がよく砂に包まれて、極く細小の花瓣一つでも曲げないやうに注意しなければなりません。また花の害はるゝのを恐れますので、箱を搖さずに、少なくとも二週間日光に晒らして置くのです。かくしてよく注意致しますと、數年間は花瓣はたとへ破れても、變色せずに保存する事が出來ます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏と兒童遊戲の二三

甲賀藤子

△遊びも亦習はねばならぬもの

大勢のお子さん方を預つて見ますと、いろ〳〵性質の變つたお子さんがあるもので、先年私の幼稚園に入つて來られたお子さんで、遊びの時間になると一人小さい椅子を人の居ない靜かな處に運んでは、ぢつと座つて居る。どうして遊ばないのですかと尋ねると「子供の騒ぐのがうるさくていやだ」と申すのです。このお子さんはお家で大人や年寄り斗りを相手にして居られたので、いつか大人染みて、活潑な子供の遊びがうるさかつたのです。然し四五日の後他のお子さん方の面白く遊ぶのにつり込まれて遊び始め、次第に遊びの面白味を知つて、やがて幾何も經たない中に活潑なお子さんになり、從つて身體も丈夫になつて、今級長をして居るといふ成績になりました。又これは女のお子さんで、泣いて斗り居るとて、お家でも持て餘して居られ、友達も朝、誘ひによるのに「玉子さん、また泣きに行きませうか」などゝ云ふ位、よく泣くお子さんでした。始め幼稚園に參りました時、皆が樂しさうに遊んで居る傍で、相變らず一人泣いて居る。四五日かやうにして居りましたが、或日ふと泣くのを止めて四邊を見て「泣いて居るのは玉子一人だ」と云つて泣き止みました。そして段々皆の遊びに加はるやうになり、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

この頃では快活なよいお子さんになりました。これ等によつて見ると、遊びといふものも、また習はなければならぬもので、從つて夏休み等でもお子樣方の遊びを打捨てゝ置かずに、お母樣方は少し注意をして導いていたゞき度いと思ひます。

△海邊にての遊び

海邊の大砂場は、お子樣方の爲めには自然のよい遊び場所です、稀らしい貝や石を集めたり、波と鬼ごつこをしたり、小石の下に潜む小魚や蟹を捕つたり、砂でお山を築いたり、平らにして字を書いたり、少し大きいお子ならば海に入つて泳いだり、海草を取つたり、また舟を浮べて漕ぐもよく、漁人や魚屋ごつこ等も面白いでせう。フレーベルの「母の遊戯」に『子供はピン／＼して居るもの故、勢のよい魚は自分に大層親しく近いものゝやうに思つて、殊更らの興味を惹く」といふやうな意味の事を申して居りますやうに、小魚をとる事は、就中お子さん方の限りない樂しみです。また天と水と一つになるまで際涯なき宏大なながめや、朝日、夕日に色どる雲の色や、何千年の齡か、波に緑の蔭うつして居る松や、あらゆる大きな自然は、子供の心に一種不可思議な力を悟らせるものです、これは宗教心の萠芽とも見る事が出來ませう。然し一方に注意しなければならぬ事があります。私は醫者でないので、よく分りませぬか、海邊は自然に餘り多くの遊び相手があるので、子供が遊び疲れはしないかと案じられます。それに餘り宏大無邊で、ばつと致して居る處から、子供の注意が散漫いたしはせぬかと思はれます。それ故時々子供を木陰にでも呼び入れて、靜かに休ませるとか、またお伽譚でも聞かせて、氣を落付かせる事が必要であります。

△河、池のほとり

海でなくとも、子供には少しの水溜りでも大層面白いのです。繁華な東京の横町などに入ると、お母

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さんが水道で洗濯して居る傍に、金盥に水を入れてぢやぶ／＼して居るお子さんをよく見ます。それ故お庭の池でも田舎の裏を流るゝ小川でもあらうものならどんなによい樂しみを與へる事でせう。笊や小さい網でいゝめだかを掬つたり、笹の葉や附木でお舟を拵らへて浮べて見たり、木片を持つて來て橋を架けてみたり、午後の日盛りには水浴びをする事も出來、淺瀬にしゞみを取り、岸の木蔭に釣する事も出來ます。又時には盥舟を浮べて菱の實をあさり、蓮の實を取るなどの樂しみもあります。殊に釣は氣の散るお子さんの爲めには、よい訓練になります。大阪の宮川牧師が嘗て申さるゝには、自分の子供に一人氣の

落付かぬのがあるので、釣をさせて居ると申された事があつて、私は大層感じた事がありました。御承

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

知の通り釣は針の先きに餌をつけて、ぢつと水中に糸を垂らして、チヨツ〳〵と魚がつゝくのを合圖に引上げるので、その間靜かに待たなければなりません。急せつて居つたら終日糸を垂れても一匹も得らるゝものではありません。水邊で只注意しなければならないのは危い事です。昨年日本にも來朝されたリチャードさんの姪御にあたる方が、私が亞米利加に居ります頃でしたが、ほんの水溜りで亡くなられた事を記憶して居ります。お庭で遊んで居つたかと思ふと影が見えない、家中大騷ぎをして諸所を探ねたが、遂に見當らない。最後に庭の小さい水溜りを見ると、其處にはまつて亡くなつて居られたので非常に驚き悲しまれました。然しお子さん方はどんな小さな處でも、一寸足が着くと思つた處に足が屆かなかつたりすると、びつくりする事が餘計で、命をおとして終ふ事があります。それ故遊びの間は油斷なく見張りをして居らなければなりません。

△野山遊び

草は茂り、木の實は成熟して居る野山もまた澤山の遊び相手があります。野の花を摘んで花屋ごつこをしたり、木の實に足をつけて人形を作つたり、蝶や蟬をさしたり、蟻のお家を見舞つたりするのは、お子さん方にとつては、どんな愉快か分りませぬ。また野山には往々粘土になるやうなよい土があります。もし野山をかけ歩いた間々には、粘土細工などをさせたならば、子供の氣を沈めるのにこの上ないよい遊びと思ひます。こうして散漫の氣を時々引締めれば、秋、學校に歸つて困る様な事はありません。蝶や蟬のやうな生き物を捕へて、殺させる事はよくありません。弱りさうになつたらば「蝶はあなたの手に居るより、自分のお家に行きたいのでせうから、歸してやりませうね」と云つて、同情を誘つて放させるやうにしたいものです。蟻の穴でも無暗に草履で履みにじつたり、毀したりするお子さんがありますが、かやうな時、蟻のお家を御覽なさい、お父さんやお母さんや、あなた方のやうなお子さんが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

此處に住んで居るのですよ。暑いのにこんなにせつせと働いて、晩には一緒に樂しく御飯をいたゞくのでせう」と云つて、注意しながら見せますと、却つて保護する態度になるものです。只困ります事は蟻がお子さん方の大事にして居る草や木の根についた時です。かやうな時にはお子さん方の見て居らぬ時に退治して置きます。さうせぬと或時は保護するやうに敎へ、或時は殺生するやうに敎へては、迷ひになつていけませんと思ひます。

△遊びを與へ過ぎぬ注意

此處に兒童の遊びに就て、お家なり、褓姆なりが是非注意いたさなければならぬ事は、餘り遊びを與へ過ぎぬやうにする事です。西洋の家庭でもよく子供に玩具を與へ過ぎて、子供がどうしてよいか判らぬといふやうな場合があると聞きました。子供にとつては誠に有難迷惑の話であります。よくお母樣方が「家の子供は遊んだあと片付けなくて困る」と申されますが、こういふお子は往々玩具なり、お伽噺なり、子供の力で仕末しきれぬ程多く與へられて居る場合が往々あるのです。また幼稚園などで、多くのお子さんの内には遊戯の時間に「先生まだ鐘がなりませんか」と聞く事がありますが、かやうな場合は遊び疲れたので、その時はもはや靜かに休ませる必要があります。これと同樣に、平常餘り遊び馴れぬお子さんに海や山に參つたからとて、急に永く遊ばせたり、歩るき馴れぬお子さんに急に遠道をさせたりするのは如何でせうか。遊びも次第に發達いたすのを待たねばなりません。

△目的をもてる遊び

海に行つて貝を拾ふにも、山に行つて花を摘むにしても、もしお母樣方の注意があつて、これを東京のお祖母樣に持つて行きませうとか、學校の先生に御目にかけませうとか、花を摘むにしても、病氣の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

誰さんに上げませうとか、押し花にして保存して置きませうとか、何か目的をもたせると、子供は一層の興味があり、また作るものにも精神が入つて參ります。かやうな事は學校の先生が一般の兒童に向つて申せば、或は差支へになるお家があるかも知れませぬから、家庭の方が注意して下さるのが一番よろしう御座います。またお子さん方が、かやうに丹精して作つたものは、たとへ貝一つでも、花一本でもお家の方はどうか喜んで受けて頂き度い。私の幼稚園でお子さんの作つた胡瓜が實りましたので、少し宛持たしてお歸しすると、或お家では坊の作つたのだと云つて、女中達にまで少し宛分けていたゞかせたと申すことですが、お子さんの爲めにはどんなに張合になるか分りませぬ。

△家に居るお子の爲めに

家に居るお子方にも、これ等に似た樣な遊びが出來ます。たとへ庭がなくとも、蜜柑の空箱に土を入れて朝顔を蒔いたり、戸外から採つて來た草を植えたりして、椽側なり、窓側なりに置いておけば、どんなに樂しんで世話する事でせう。宅の小さい庭に赤茄子を一二本植えて置きましたが、魚屋までが毎日大きくなるのを見ては喜んで、一寸魚の粕でもやつてゆくといふ風です。生命あるものは何でも人の興味を惹きますが、殊にお子さん方の爲めには、自分に最も近いものゝやうな親しみを持つものです。またお子さん方は砂が大變好きなものです。或時幼稚園の庭の砂を頻りにハンケチに包むお子さんを見ました、こんなのは決して惡る氣でなく、家にないから少し持つて行つて遊んだらさぞ面白からうと思ふので、そのお家に注意して砂を置いていたゞいた事がありました。もし出來るならば少しの砂を庭に置いて下すつたら、隨分いろ〳〵の遊びが出來、長い休みの間どんなに樂しまれる事でせう。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自然と子供

其の三　動物に就て

海老名みや子

△鳥の世界

更に思ひを鳥の世界に馳せて見ますと、虫の世界よりも人間には一層關係が近くなり、幾分人の情も解することが出來る樣で、眞に可愛く思はれるものであります。私がまだ子供の比でありましたが、ある時、半ば羽を生じた位の雀の子が、軒端の巣から落ちてパタ〳〵して居りますので、可憐さうだと思つて捕へて籠に入れ綿で巣を作らへて其中に入れ、日に幾度となくすり餌や生餌を揚枝の先につけては養つてやりました。初めの程は無理に口を開かす樣にして餌を與へましたが、段々馴れて來ますと、親鳥の聲をまねて、揚枝をもつて參りますと、もう自分で一ぱい口を開けて食する樣になりました。その中に段々成長しまして、羽もはへ、どこへでも飛べる樣になりましたから自由の天地に歸らしてやり度いと思ひまして籠の口をあげてやりましても、決して遠くへ飛んで行ふこと致しませぬ。食事時など私の肩にのつたりお膳の上に上つたり、人が歩行きますとチウ〳〵といつて其後をつひて歩いて居ましたのでとう〳〵女中にふみ殺されて仕舞ひました。實に不憫なことをしたと其の當座はたまらなく感じました。私の友人が鷄を澤山飼はれた時の實驗をきゝますに、可愛がる人はよく覺えて其姿が見えるとすぐに集つて來る、そして澤山の鷄に一々を名をつけて其名を呼びますと各自がよく記臆して居まして間違

へずに、其名を呼ばれた鶏がきつと參りますそうです。實に面白いではありませぬか。先々號に申ました通り、宅は狭い屋敷ながらも樹木が澤山あるせいか、四季を通して様々の鳥が參ります。春になつて鶯が來初めますと二疋か三疋の鶯が極つて參ります。しかもそれが同じ鶯で、二疋は二疋皆鳴聲に特色がありますので、ア丶かの鶯だなどいふことが分ります。昨日來た鶯が今日も來、明日も來るといふと、ア丶復あれが來たなと思つて聞きますと、同じホウホケキョーにも一層のなつかしみが加はります。雀の如きは何十、何百と數限りもないもので皆一様の鳴き聲に一様の姿でありますから、どれがどれだか無論見わけられ様はありませぬが、兎も角人の一部分をわけて貰つて生活して居ると思ひますと、無下に追ひ拂ひ度くはありませぬ。裏の垣根に蔓イチゴが澤山なりますが、近年は少しも私共人間の口へはは入りませぬ。そのわけは、雀等がよく知つて居まして、熟するのを待つて群れて來ては食べて仕舞ます。宅の子供等も雀等が喜んで食べるの見まして は強て爭つて食べやうとも致しませんで、これは雀のものとして其するがまゝに任せてあります。私は雀等が我もの顔に食べるのも、亦子供等が快く彼らに與へて居るのも、實に面白く愉快に感じて居ます

柿の實が少し色付いて參りますと、眞つ先きに其お毒味を致しますのは烏でございます。全體烏といふ鳥は、ズウ／＼しくて、いたづらで、そして賢くて柿の實でも一番赤くて美味さうなのをめがけてつつつき落す様なことを致しますから、子供達も一生懸命になつて追ひますと、パット飛んで屏の上などにとまつて、何んだ小僧供がといつた様に、横目にひつかけてガヲ／＼と啼てる處、憎らしいやら滑稽やら、あれで仲々の愛嬌者です。自由自在に大空をかけ廻り木から木を飛び廻つて居る野放しの鳥でもこの様に、皆夫々の特長があつて人間に少なからざる興味を與ふるものでありますのに、ましてや人の手に飼はれ多少の教育を授けられまして、人語を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

眞似たり、様々の囀をしたりするに至りますと限りない興味を與ふることは申までもありませぬ。猶其外に其羽毛の美はしいこと、如何なる畫工の筆を以てしても恐らく其美妙なる色を出すことは出來ますまい。如何なる美術家も其輕妙なるわざを眞似ることは出來ませぬ。さればこそやんごとなき方様の御帽子の飾ともなつてもてはやされるのであります。

△鳥獸の生命を尊べ

又、更に此美しいあいらしい鳥共が如何に骨折つて、其子を育みそだてゝるかといふことを見ます時には、自ら涙を催すものがあります。不思議なもので、鷄鳥でも、鴨でも又カナリヤでも、自然のまゝ野放しの時は一夫一婦で、雄は雌やひなの食物を運んだり、又保護をしたり一生懸命に働くさうです。人爲を加へない自然の姿に、却て美點を見ますことは面白ではありませぬか。それには成程と合點さるゝ理由がありますが、それは猶他の折に研究して見度いと思ひます。一錢にて買はるゝ雀ですら、天の父のおゆるしがなければ地に落ることはないとは實に貴いお言葉であります。されば私共人間はどこ迄もこれを保護し、又善用して行く様心がけねばなりませぬ。そして子供達にも其心得をよく敎へて、決して無益な殺生やいたづらをせず、愛護する様に致させねばならないと思ひます。さう致しましたらば、かの淺草なぞの鳩の様に、雀でも何でも人を見て恐れず、むしろ馴れ親しんで足もとに群れ集ふ様になるであらふと思ひます。今より四五十年前迄は今日の様に鐵砲で擊つことをしなかつた爲か、一寸田舍に行くと雁や鶴の群が田畑に一面下りて來ることがあつたさうです。現に私の知人で、維新の際お國住ひとなつて田舍へ行かれました時、舊おしも屋敷か何かを拜借してお住いになつたさうですが、お庭が廣くてお池なぞがありますので、鴨だの雁だの雉だの少しも人を恐れる様なく群れ居たさうです。今から考えると實に仙境の感があります。それが幾世紀

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

を隔てた昔のおはなしかと思へば今よりたつた四十四五年前のことであります。私はある一部の佛者の様に殺生を忌み嫌ふといふ譯ではありませぬが、所謂無益な殺生はしたくないのです。出來る丈いたはりまして彼等の生活を快くしてやりまするは、猶一層天地の美觀をも増し加へることであらうと思ひます。

△獸との親しみ

獸に就ては、人間か猶一層の關係と親しみを有つて居ることは申迄もありませぬ。猫を可愛がる人、犬を愛する人々は隨分澤山ありますが、西洋に比べて見ますなれば概して日本の人の方が動物に對しては冷淡で、又嫌ひな人が多いのではないかと思ひます。其證據には、少しく動物の畫を研究して見ると分ります。皆さん繪畫展覽會などの時、氣をつけて御覽遊ばせ。日本人の書いた猫でも、犬でも、其相貌が險しくて、野鄙の面影を殘してをります。ある美人が猫を胞いた圖を見ました時、私はすぐ、アアこれは猫嫌らひが書た繪だなと感じました。恐らく此私の素人評は間違ひなからうと思ひます。畫工が眞を穿つには動物其者の心が讀める迄に、而してそれに眞の同情がそゝげる迄に至らなければ出來ないことであらうと思ひます。眞に迫つた動物の繪のないのを見ますと確かに日本人は左迄動物に同情を有たないと申てよいと思ひます。西洋には子供と動物の繪が澤山ありますが、それが實に可愛くて、美はしくて、眞に迫つて居ります。無邪氣な愛くるしい子供の顏と、懷かしい、慕はしい小さな主人公に對する動物の顏とが融けあつて何ともいへない貴いよい氣持が生じます。お友達や兄弟の間では、稍ともすると互に爭論が始まつたり暴行か行はれたり致しますが、動物に對しましてはどんな亂暴な子でも自然可愛いと思ふ心や、憐愍の情が發して來るものと見えて、乍ち優しい態度に變つてしまひます、けれどもどうかすると途中などで戯づらな子供が、犬や

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

猫をいじめて、面白がつて居るのを見受けますが、あれは誠によくないことであると思ひます。弱いもの、罪のないものをいじめるは殘酷の極で、其子の性格が如何に我儘で、冷酷であるかゞ察せられます。どうぞ動物に對しては優しい、溫い情をかけてやる樣に幼い時から敎へてやり度いものであります。實際可愛がつて見ますと、かうも人間をたよるものかと思ふ樣で、誰でも不便をかけてやり度くなるであらうと思ひます。人は他に向つて同情の念、憐愍の心をそゝぐ丈けそれ丈け其人の心は美しく、貴くなるものであります。

△自然の美

要するに人は此一點の僞りなき自然に接して、初めて眞面目なることを得ます。此善良なる自然に接してるかぎり、人は惡人たることは斷じて得ませぬ。天下に美人は我のみであると勝ち誇つたる少女も、樹かげに咲いた一輪のすみれを手にして、如何に我美の見劣りせらるゝかを感じましやう。美人も自然の美に接して初めて眞の美人となることが出來ます。眞に貴い人格は此自然に同化しなければ決して出來なからうと思ひます。又偉大なる人格にして初めて自然に觸れ、其眞想を見ることが出來ます。基督の御眼には、野の百合花は、美を盡して王樣の衣よりも美しく映ずるではありませぬか。子供等をして此貴い、豊富な、美しい自然に接せしめるのは、其性格を貴くならしめ、美ならしめると同時に其身體をも強壯ならしむる唯一の方法であります。私は今こゝに再び私の愛讀の句を引て此稿を終了し度いと思ひます。

「おほかみは小羊とゝもにやどり、豹は小山羊とゝもにふし、犢をじゝ肥たる家畜と共にをりてちひさき童子にみちびかれ、牝牛と熊とはくひものを同にし、熊の子と牛の子とゝもにふし、獅は牛の如く藁をくらひ、乳兒は毒蛇のほらに戯れ、乳ばなれの兒は手をまむしの穴に入れて、斯くて我聖山のいづこにても害ふことなく傷ることなからん。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

簡易生活と食物

手塚かね子

△簡易生活の趣味

一體簡易生活といふものは、趣味の深いもので、私が亞米利加に居りました時、「自分は小さいから狹い部屋でよい」と云つては、小さい部屋を借りて、よく自炊生活を致しました。殊に料理研究の爲め學校に通つて居りましたから、晝は學校で作つた料理をいたゞき、朝晩は出來る丈け簡單な獻立を工夫致して見ましたが、中々面白いもので、今でも愉快な思ひ出の一つとして居ります。何しろ食物は自分の身體に必要なものを取るのが一番よいので、その程度で出來る丈け簡單に獻立なり、料理なりをする工夫が致したいものです。夏は殊に簡單な食物が身體にもよろしいし、また山間や海邊の邊僻な處に行きますれば、是非共簡易な食物の工夫を致さなければなりません。自分はまだ日本での簡易生活は餘り經驗がありませんが、然し一二の土臺になる事を申上げて、御參考の一端に供したいと思ひます。

△火を使はぬ工夫

夏の料理は、先づ火を使はぬ工夫をするといふ事を土臺に置くとよろしう御座います。火を使はなければ從つて涼しくもあり、手間も省けるので、これが同時に簡易生活には必要な條件で御座います。それならどんなものを使たらよいかと申しますのに、時節柄天然に成熟したものが多いので、材料は割合に撰び易う御座います。

△野菜代用の菓物

野菜の代用としては酸味の少い菓物、例へば甜瓜西瓜、バナ、等もよく、また別段鍋を用ひずとも一寸火に炙つて食べられる唐黍蜀等もよく、また野菜の中でも胡瓜のやうなものは、鹽丈けでも食べられ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ますし、鹽と酢とでもあればなほ結構に戴けますので、大層便利なお野菜です。バナヽは殊に穀類とよく合ひますから、澤山用ひるとよいのですが、何しろ日本では高くて致し方がありません。甜瓜、西瓜は日本にも澤山ありますから、田舎ならば庭の冷たい流れにでもつけて置いていたゞけば、誠に結構なものです。

△魚肉類は如何

食物には野菜の外に是非蛋白質即ち魚肉の類を取らなければなりません。西洋ではローストを賣る店などがあつて、其處に行つて入用丈け買つて來られるといふ便利もあります。日本でこれによく似たのは、かの所謂いゝめし屋で魚の煮付を賣つて居ります。今日ではとてもかやうな店に普通の人が買ひに行く事は出來ず、また店も不潔でありますが、追々はこれが一般の家庭の需要を充たす様になつたならば、大變便利であらうと思ふし、殊に避暑地等で自炊する人の爲めにはよからうと思ひます。罐詰もよろしう御座いますが、一罐あければ直ぐ使つて終はなければならないので、不經濟でもあり、また小人數では飽きていけません。それよりもハムを大きな儘ゆでゝ置けば、薄く少し宛切つて用ゆる事が出來て便利です。その他どんな山の中に入つても、鷄卵はあるものです。その半熟は滋養にもなり、飽きもこず、また世話なく出來てよろしう御座います。どうして半熟にするかと云ふに、鐵瓶の沸騰つた湯を、玉子のひたる丈けの深さの鉢に入れ、二十五分位置けば丁度白味が固まつて、黄味がどろ〳〵になる程度になります。これを殼の一方を破つて、少し鹽を加へて、小さい匙で掬つていたゞくので、汽車の辨當などには殊によいものです。

△飯の代用

飯の代用としてはパンもよう御座いますが、日本などでは片田舍に行きますと一寸手に入り難う御座

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

います。それ故ホースと申して罐入りになつて居り一寸平むぎを薄く延ばした樣に、燒き米のやうな味のするものですが、それに新らしい牛乳をかけていたゞくと、パンより却つて飽かずにいたゞけます。日本でも洋食品店で一鑵四十錢位で賣つて居りますが、一人ならば月に二鑵もあれば澤山です。私が亞米利加で自炊した頃は朝のオートミルの代用にも、夕のパンの代りにも、これ許りを用ひて居りました。もしこれにバナ、などを刻み込むと一層味よくいただけます。

△一般の食膳に欲しきもの

右は二三の材料を擧げたのみですが、時と所とによつていろ／＼の天產物もありませう、また人の嗜好もありませうから、かやうなものを參考に御工夫をなすつたらよろしいと思ひます。又日本の普通の獻立は、どうも糖分が不足して居りますから、私の考へでは間にいたゞくお菓子をよして、食後にしたらばよろしからうと思ひます。また番茶をよくほうじて、砂糖を入れていたゞくと、コーヒーや紅茶の代りに結構にいたゞけます。その他には菓物がもう少し付いたらと思ひます。これは少し高くて、困りますが、然し間にもしいたゞきますならば、食後に取つておくといふ風に致したいものです。

新刊紹介

◉改訂増補 育兒法　醫學博士 加藤照麿氏述

何事も進步變遷の劇しい現今に於て、最近數年間の育兒法の變遷程著しきものはなく、たゞに十年否七八年前の說がもはや古きものとなつた斗りでなく、明治四十一年八月編纂の育兒法はもはや諸所改訂の必要を生ずるに至り、再び博士の好意により親切に改訂增補して發刊したのが本書であるとの意が編纂の羽仁夫人が緒言として書いて居らるゝ。初生兒の養育母乳の與へ方より小兒病の手當等懇切に、しかも簡明に說かれてある。或る育兒に心せる夫人は本書を讀んで、自分共が多年の實驗上こうしたら一番よいであらうと思つて居つた事に裏書きなせらるゝ感があると評して居られた。若き母親は勿論、既に育兒に經驗を積んだ方々もこの書によつて最近の育兒法を學ばるゝ事は、子供に取つての幸福であると信じます。發行所東京小石川區雜司ヶ谷一一九婦人の友社定價八十錢

晩年の手習

小林あや子

小林あや子氏はライオン歯磨本舗故小林富次郎氏の夫人であります。四十幾歳迄殆ど一字をも辨へられませんでしたが、文字の必要を切に感じ、その頃から手習ひを始めました。昨年來茅ヶ崎に閑居せられて居りますが、この頃では見聞感想を記す事や親戚知友に手紙を書く爲めに筆とる事をこの上なき樂しみとせられて居ります。左は自ら筆を取つて書かれしもので、此處に揭ぐるに當り僅に二三ヶ所の訂正を試みたのみであります。

○

「さきのこゝろ」に記してありました「法事の配り餅。仇に報ゆるに恩を以てしたる話」といふのに、昔東京のことを江戸といつた頃、茅場町のさる處に、小西宗兵衛といふ富豪がありました。此の人の先祖は紀州の者で、幼少の折は至て貧乏に暮して居りましたが、其村の習慣として親の年忌、先祖の年忌等の法事には、村中に餅を配る樣になつて居つた所此宗兵衛の家は餘り貧乏であつた故、仲間に入ることが出來なかつたのであります。其を知らぬ宗兵衛は母に向ひ、「私の家には何故餅が來ないのでせう」と申したので、母親は餅が食べたい故に斯くいふのかと思ひ、苦しい中から餅を買ひ求めて、阿部川にして食べさせました。宗兵衛は年こそ幼けれ、一生此事を忘れず、それから江戸に出て、長らく辛抱した甲斐ありて、或人に見込まれ、相當な家の養子となつた後、更に其身上を段々とよく致し、終には江戸にて名ある金持となりましたが、やがて或年久し振りで紀州に行き、親の法事を營みました時、村中一軒も殘らず餅を配り殊に先年自分に呉れなかつた家には特別大きくして遣はし「先年幼少の時、餅を下されなかつたお蔭にて辛抱致し、今漸く此丈けになりましたが、之といふも皆餅を下さらなかつた爲でござります」と、自ら出向いて厚く禮を述べたと申すことであります。

○

これを聞きまして、私は大に感じました。私もこれと同じくある人にお禮を申上げたいので御座います。私は餅ではございません、學問で御座います。私事は越後の國中頸城郡で御座いまして、私の學ぶ時は寺小屋でありまして、其頃は女子には餘り學問には重きをおきませんでした。なぜと申しますと、只今とは違ひ國も偏僻故、親達も餘り學問すると夫を袖の下にするなどゝ申しまして、それよりも針仕事が肝腎だといふて、あまり學問に就ては心配致さぬからでした。ですから私と同歳の人で讀書の出來ない人は只今でも多く御座います。事によれば男子にもときた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

まある様子で御座います、その內に御一新に成まして、追々學校も出來、今度はあべこべに針仕事は二の次、學問を一生懸命に學ばせる樣になりました、それで私の妹からは學校に上る樣になりましたので、其の時私は實に羨しく思ひました。嗚呼もう四五年をそく生れたならば、私も學校に上れたのにさ悲觀致しました。其の內に東京へ登る事に成りまして、彼方此方さ人樣にお世話になつて居る內、不思議な縁にて小林家に嫁ぎました。親達は勿論、私に取りましては、此の上もなき仕合せさ打喜び、何も別に不自由はありませんが、郷里より頻りさ手紙のやり取り致さなければなりません故、その度每に娘に書いて下さい、讀で下さいさ申しますさ、何時もはいく〳〵さ讀んだり、書いたりして吳れますが時によつて下手で御座います、書けませんさ斷つた事が二度程あつたのが、私の頭にしみまして、やれ〳〵血を別けた我子でさへ自分の思ふ樣にゆかないものださ、其時實に失望致しまして、サー又例の學問が氣に成り出し或時夫に願ひました。「私は甚だ恐れ入りますが此の節の世の中にて自分用を足す事の出來ないのは、誠に殘念に思ひますから學問いたしたく御座います」さ申しますさ、夫が「それは御尤、幸ひ家庭敎師が居る故、遠慮なくお習いなさい」さ申してくれました故、早速若夫婦に其の事を話し致しますさ、倅が申しますには、「迚此頃四十幾歲になる方が袴を付て學校に行くさいひますから、お母さんもお習ひなさい、充分覺えます」さ二人共口を揃へて云ふて吳れました。其時丁度海老名先生の御親戚安達よし子樣さいふ方に抑々初めて敎へて頂きました、それから一生懸命になつて夜晝、すきさへあれば本當に學びの道に餘念なく勵みました、お蔭樣にてその甲斐あり只今漸く自分用が足りる樣に成りましたのは即ち娘のお蔭ださ思つて居ります。只今考へますさ、娘が私事を勵ます爲めであつたさ思ひますから、いつかお禮を申したいさ思つて居ります。これは私の實驗上の事丈、一寸申述べた次第で御座います。誰れでも出來ないくさ云ふて居れば、矢張り出來ないのは當り前で御座います。それを熱心にやりさへすれば、誰れでも出來ますさ思ひます。

新刊紹介

◉孤島の姉妹　三津木春影氏著

ロビンソン、クルーソーの樣な漂流の運命に遇ふた日本の三人の姉妹の少女を描いたものであります。夏期の輕い少女の讀み物に好適のものでありませう。發所行東京京橋區南紺屋町十二、實業之日本社

（定價三十五錢）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ローヘングリン（中）

三枝幾子譯

エルザの無實なる嫌疑の償ひとして、アントワプの人民は其婚禮の當日に、町の年老いた男女さへも今迄嘗て見た事の無い程の祭をしやうと思ひ立ちました。サア恁うなりますと人々は急にエルザの武士の功名を褒め稱へ出しまして初めエルザが嫌疑を受けて王の前に伴れ來られた時には口をつぐむで居つた多くの華族さへも、今度はうつて變つて成る可く人よりも立派な婚禮の贈物をしやうと爭ふ程に相成りました。心中では皆な此武士は誰れで何處から來たのであろうと怪しまぬ者は有りませんでしたが、既にテラモンドの敗戰を見、向はゞ必ず戰を挑まれるに相違ないと承知致して居りました故、恐れを抱いて誰一人尋ねるものも有りませんでした。

エルザの婚禮の前夜の町の光景は、誠に美はしく華麗なもので有りました。大きな旗は家々の棟に飜へり、赤青黄の小旗は廣からぬ市街に棚びき渡り、香の高いバラやスヒカツラで造り上げられたアーチも所々に立つて有りますし、又町の市場には大きな酒樽が据え付けられて有りまして、次ぎの日には誰でも望みの儘に食べられる丈の食物がテーブルの上には用意されて有りました。飜へれる小旗の上には皆エルザ姫と氣高き武士との生命長かれ！と云ふ文字が記されて有り、市の中央にある公園の噴水の傍には匂ひ良き白バラで造つた一羽の鵠が飾りつけら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

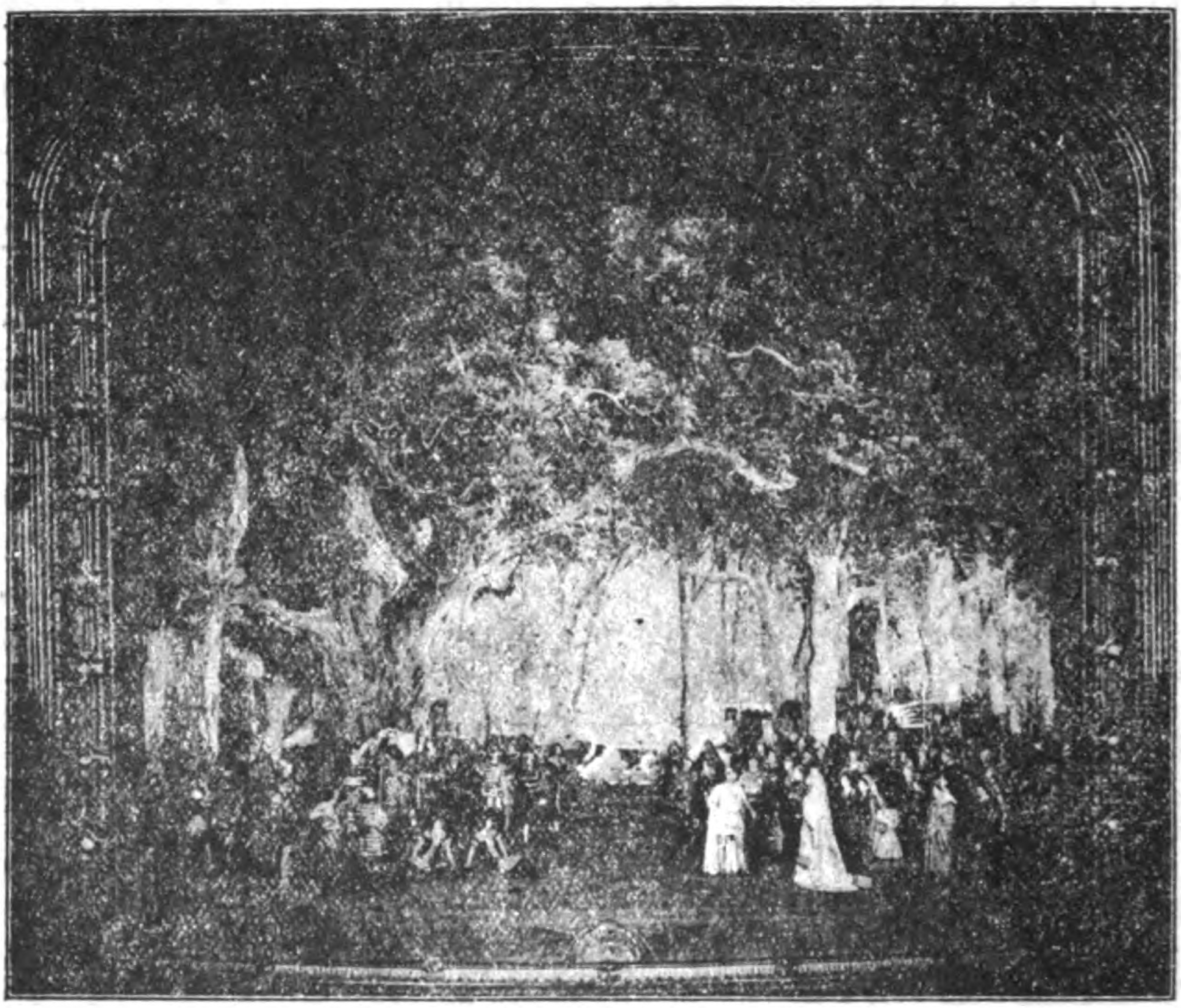
れて有りました。首には黄色の百合の花で出來た金の鎖がついて居りました。エルザの宮城の窓は丁度此の公園に面して居りましたが、姫は自分を救ふて呉れた武士にちなんだ此の記念物を見まして、兩手を打つて喜びました

やがて夕暮が來り夏の夜の宵闇の騷しい市を掩ひ包みまするや、公爵の宮殿にはまばゆき許りに光が點され開け放つた窓から洩るゝ樂の音は初夏の暖き空氣にたゞよふて、内での喜び舞ふ樣や、柔らかき絹布や繻子に身を飾つた紳士淑女の、彼方此方と行き來する樣を物語つて居りました。エルザの城に近き公園の片隅には、アントワプの寺院が一つ立つて居りましたが、そこらを取圍むでおる賑やかな店や、お城に比較して如何にも薄暗く物靜かに見えました。裝飾は盡く内部に許り有りましたので、柔皮張りの重い戸の堅く閉め切つて有りました時には誰も其内に數百の燈明の輝き渡つて居らうなどゝは夢にも思ひませんでした。珍らしき花貴重な絹布の掛物までも既に婚禮の儀式の爲に堂内には飾りつけられあり、いよ／＼翌日は王樣まで御臨席と云ふ事で有りました。

嫉みにもゆるテラモンドとオーツルド

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

今しも此の會堂の入口に通ずる石段の上に腰打ちかけて、妬みと憎しみとに堪へぬもの〻如く光り輝くエルザの宮城の窓を闇の中から見守つてをる男女二人が有ります。それは云ふまでもなくテラモンドとオーツルドで有ります彼の武士に負かされて以來、夫婦の間には言ひ爭ひが絶えませんでしたが、エルザの有罪なるを確信して居ると王の前に於て自分に誓はせたのは夫人の罪であると、テラモンドはオーツルドを咎めました。此處に於て彼女の毒惡なる頭は再び働き出し、如何にもして今一度夫に己が才能を知らしめかた〲自分等二人の日頃憎いと思ふエルザと武士とを害してやろうと、再び思案を廻らし初めました。はでやかなる宮殿から歸り行く客の姿を無言の儘見送つて居りました二人には、鵠の武士に今宵ばかりの別れを告げて歸しやるエルザの顏の包みきれぬ喜びの色まで手に取るやうにわかりました。眞白き外套に身をつゝみ、十字の



エルザの幻の武士に明日を約して別る　ウイスバーデンの王室劇場

形の柄のついた長劍を腰に帶びし武士は、無心に公園を橫ぎりましたが、バラの鵠の飾られて有る噴水の傍に參りまするや、ふと立ち止まり、呟きました

『信じ得べき鳥よ！、汝はよくも此の吾れに仕へたり。汝の我が爲に願ひ吳れし喜び事は最早我が掌中に在り。』

憎き敵の姿さへ胸惡く思ひました。チラモンドは石段から立ち上つて遂ひに家へと歸りました。後に殘つたのは夫人で有ります。根氣よく尙ほも樣子を窺ひ續けて居りますと、やがて姬の寢室の窓は開き、公園を一眺めの鐵の物見の上にエルザは現はれ出ました。手を組み合せて濃い青空を仰ぎ見た樣は如何にも美はしい風情で有りました。舞踏の折にまとふて居りました玉衣の代りに、眞白の寐衣はふわりと身に掛り、しとやかな肩の上に散りかゝつたあでやかな髮さへ、金のショールの樣に見えました。物靜かな夏の夜に向ふて低いかすかな聲音で、武士戀ふる可憐の歌をエルザは遂ひに唱ひ出しました。其の小鳥の如き調べ、喜びに踊る言葉の物隱に立聞きせるオーツルドの耳に入りまするや、妬みと怒りの念が一時に胸に群り來り、忽ちに一つの惡計が編み出されました。如何にしてエルザの幸福を破り得るやオーツルド最早チャンと知つて居ります。萬一自分等二人が王國を取る事は出來ないとしても、兎に角エルザと其戀人の位を繼ぐ邪魔丈は出來ようと信じて居りました。直ぐ立ち上つて彼女は物見の下へ參り

『エルザよ／＼！』

と呼び掛けました。

エルザは歌を止め、物見から眞闇な公園の內をすかし見乍ら『誰ですか』と尋ねました。

『一寸御話が御座いますから御蹲み下さいませ。貴女の御喜びに引きかへて、今宵の私の此有樣御情けが有りましたら何卒憐れと思召して、一通り私の申上げます事を御聞き取り下さいませ。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

質素な服を身にまとふて、足下に立てる高慢の夫人の姿に心の動いたエルザは答へて、

『御入りなさい、オーツルド夫人よ。あなたのおつしやる事なら伺ひませうとも』

やがて二人は室内に座を占めました。先づエルザはオーツルドに向ひ

『私が弟を殺害したと御信じになつたのは如何なる理由で有りましたか、其れが知り度う御座います』

問はれてオーツルドはさも悲しげに答ふるやう、

『私の信じました理由は恁うで御座います、いと氣高きエルザよ。貴女が幻に貴き武士を御覧になりましたと同樣に、私も矢張り一つの幻を見ました。鐵の卷物の上に焰の文字でどうしてあなたが其の大罪を御犯しになりましたかゞ記されて有りました。然し其幻の天から下つたもので無い事には、今が今迄心付きませんでした。それで今宵は改めて御詫びに參つたので御座います。此の誤りの爲め私は生涯懺悔に日を送るで御座いませう。』

エルザはオーツルドの言葉に同情せざるを得ませんでした。自分の幻が眞實のもので、又其結果が驚く可き程で有りましたので、オーツルドの幻に左右されたのも止むを得ざりし事と思ひ込みました、兎に角眞實無邪氣なエルザには人の物語を疑ふ程の餘地は有りませんでした。

『御許し致しませうとも、オーツルド夫人よ！マア今夜は此處へ御宿りなさい。そして明日婚禮の式へも私と一緒に參りませう』

オーツルドはエルザの許しと其親切なる招待とに對し、如何にも感謝に堪へぬやうに見せかけ、翌日の目出度い事や、又先きの日の白鵠の武士の手柄話など致して、東の空の白らむまで語り續けました。

エルザは朝のうちを祈禱の時間にあてゝ置きましたが、オーツルドの言葉の中に含まれて居りました魔術の力に逐ひ迷はされて、未來の我が夫を褒め稱へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て與れる其の歌聲を聞き乍ら、茫然として時を過ごして了ひました。
『夫の敗戰後は全く世を遁れて暮して居りましたので、何事も存じませんが、鵠の武士とのみ私共の呼ぶ方は、一體誰で何處の御方で御座いますか、エルザよ何卒御聞かせ下さいませ。』
誰で何處から來たのやら、エルザの知らない事を承知し乍ら、わざと狡猾に相手の顔をのぞき込みました。エルザは顔を曇らせて
『實は私さへあなたの御問ひに答へる事は出來ません、名も國をも尋ねてはならぬと始めから申付かつて居りますし、又私も大恩ある方の事で御座います故、決して其約束を違へまいと固く誓ふて居りまする』
『それでも不思議では御座いませぬか、ブラバントの姫とも云はれるエルザが、素性も知れぬ漂浪人と結婚するとは……眞白の鵠に引かれて來た怪しい船が、願くば天國から來たもので、私の信じて誤まつた幻の樣に後に至つて貴女に悔いを殘す事の御座いませんやうにあり度いもので御座います。身元の知れぬ貴女の夫が、現はれた時と同樣に又ふいと消え失せて了ひはせぬかと御危ぶみになりはしませんか?、魔法に依つて來たものは又魔法に依つて去ると云ふ諺をも御存じでせう?』
エルザは穩かに答へました、
『イヽエどうして、私が危ぶみませう。武士の氣高き顔を仰ぎ見ます時、總ての恐れは去つて了ひます』
二人は晝間再び遇ふと約束して、無事に其時丈は別れを告げました。然しオーツルドの去つた後エルザは獨りつく／＼と、今云はれた事ども思ひ返へして見ますと、急に、何故其の武士がやがて妻たる可き自分に對して名をも國をも秘めて置くのであらうかと怪しみの念が湧き出でました。思へば思ふ程過去の固き信用は薄らいで兎に角婚禮の式の濟み次第、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

是非共、之れを正して見ねばと、心のあせるを覺えました。

其間にオーッルドは暇を告げ、テラモンドに己が計畫を知らせやうと急ぎ家路に向ひました。歸つて見れはテラモンドは矢張り一睡もせず考へ明して居りまして、自分等の失敗の不名譽を非常に殘念がり獨り怒り切つて居る處で有りました。

『テラモンドよ〳〵！』オーッルドは勢良く呼び掛けました『サア機嫌を御なほしなされ、嬉しい事が有ります、喜の福音を持つて來ました。まだ〳〵私共はエルザや素性も知れぬ武士に打勝つ見込は有りますよ』

テラモンドは此言葉を初め誠とは思ひませんでした然しオーッルドから、宮殿でエルザと一夜を明した事や、正午結婚の式へも出席する樣招待を受けた事などたん〴〵聞きまして、妻を賢きものと兼ねて思ふた信用が、よう〳〵戻つて參り、命せらるゝ儘に何事をでもして見ようと再び約束を致しました。

『私はエルザの心中に疑惑の種を播いて來ました武士にそれを聞き正すまでは疑の念は晴れぬでせう。若しもエルザが誓を破つて武士に何處から來たか、誰なるか尋ねましたら、最早それが最後で、武士はエルザを去つて歸りゆかねばなりませぬ。其時こそ王國は私共二人の物になるだろうと云ふ事を、魔術の力で私見透しました但し今一つ勝利を得る道が有ります。それはあなたにして戴かねばなりませぬ。若し其の武士の身體から一滴の血でも流させる事が出來ましたら、今迄持つてた不思議の力はぬけて了うで有りませう。よし殺すとまでにはゆかずとも、あなた程の勇敢な方が、彼の高慢な武士位に重傷を負はす事位出來ない事がありますものか？』

長々熱心に二人は密議をこらしました。そして正午近くなるやオーッルドは立派な服に着換えまして、會堂の前の石段の邊りに座を占めて居りました。華

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

族がたの眞先に立つて婚禮の行列の着くのを待ちも　ました。うけて居りました

やがて傳令使の高いラッパの響の花嫁の御着を報じまするや、閃々と輝いた繻子の衣を身にまとひ、バラの花輪を黄金色の髪に打ちかざして、美はしいエルザは現はれました。儀式の濟むだ時、花嫁の通り道に播き散らす用意として六人の乙女は手に手に花籠を抱いて後からついて參り

結　婚　の　場

ウイスバアデンの王室劇場

『我等が貴女ブラバントのエルザ姫よ、生命長かれ！』

喜はしげの公衆の叫び聲は廣き公園の内に響き渡りました。此萬歳の聲を聞いてオーッルドは口惜しさ堪へ難く、正に會堂に入らうとしたエルザの前へ我を忘れて跳り立ちました

『御退きなさい大膽者よ！ブラバントの正

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

當なる支配者は私です、私は此權利を持つてあなたの先に會堂へ入らねばならぬ』

オーツルドの變り樣を見たエルザの驚きは一通りで有りませんでした。いと謙遜に詫び入つたみすぼらしい風の昨日の婦人と同じ人乍ら、今日は、美服を身に付け、自分の前に立ち塞がつて罵り怒つて居る其有樣とを比較して、意外の感に打たれざるを得ませんでした。而しエルザはどこまでも言葉優しく

『オーツルド夫人よ、あなたは何か思ひ違へていらつしやるのでせう。父の世繼として私こそ此王國の支配者たる可き事を要求する權利を持つて居ります。私は氣高き武士と諸共に死に至る迄忠實に國家の爲に盡すで有りませう』

答へ終つてエルザは歩を進め、會堂の内へ入らうと致しますと。然しオーツルドは再び前に立ち塞がり今度は公衆に聞える樣な高い聲で

『貴女の氣高き武士とはそも何者ですか？サア返答なさい、名をも國をも知つてますか？ブラバントの公爵が存命ならば、姫を名もなき者には上げないでせうに……アントワプの民は魔術使の如き者に甘んじて支配を受けると云ふのですか？』

エルザは遂ひに泣き出しました。

丁度此時多くの華族及び兵士を從へて、會堂近く參りましたのは花婿で有ります。オーツルドの終りの言葉を聞き、其の堂の入口に威張り立つて居る樣を見ますや、怒りの焰に顏色を變へ、速やかに石段を馳せ上りまして、先づ涙に咽んで居ります姫を胸に抱き、問はれました、

『御身の傍近く此女の來るを許せしは唯ぞ？お丶いとしきエルザよ、御身ははや我が戒を忘れしにや。御身の輕々しく思ふは魔術の力の如何に毒害なるものなるかを知らざるが故なり。』

『惡しきものとは露知らず、悔いと悲しみの色にひかされて遂ひ許せしにて候。』

エルザの答を聞き終るや、武士はオーツルドに向ひ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

怒りの言葉鋭く言ひ放ちました。

『去れよ、詐り多き女、退け!』

其顔色のたゞならざると、武士の持てる誠と氣高き力とに敵し難きを知り、彼女は退きました。そして人混みの中にまぎれ入り、間も無く姿を消して了ひました。

今迄妻とエルザとの問答に蔭乍ら耳傾けて居りましたテラモンド伯は、此時正面へ進み出で、大膽にも其名も知らぬ武士に再び決鬪を申込みました。

『先頃河岸に於ての戰ひには、力や武術で勝利を得たので無いことは明かである。魔術の憎む可き手段に依つて勝つたのだ。いざ名をも素性をも公にし、此王國支配の權がいづれにあるか男と男が爭ふて見やう。』

武士のいまだ答へぬうち、婚禮の行列の到着を待ち倦んで居りました人々と共に、王は教會の戸口の處まで現はれていらつしやいました。

鵠の武士はエルザを腕に抱えた儘、王樣に向ひ申しました、

『いと賢明なる王よ!我が力と我が武勇とは君よく之れを知り給へり。故に我は我に代つて君のテラモンドの問ひに御言葉を下し給はん事を願ふ。我等は姫の外何人にも我名及び我が素性を告ぐるを好まず。又彼女は既に君の御前に於て我秘密を固く守る可き事を誓へり。彼の日我が爲せし事及び其後の我が行動をも君知り給へり君にして若しそれにても我が正義なる事を信じ給はざれば、王よ、我れは君の御命を奉じてエルザ姫にも別れを告げ又君の御前よりも永久に立ち去る可し。』

氣高き武士を少からず愛しいつくしんで居りました王樣は、わざと公衆に聞ゆるやうな大聲で之れに御答へになりました。

『我れ汝を毫も疑はず。汝の誠あること及び氣品高きを保證す。我が快き承諾に依り、エルザは既に汝の妻と定められたり。彼女よく誓を守つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

て汝の秘密を保ち得る事をも我れ知る。姫を汝に妻はせんとして今や僧は待てり。」

王様は再び會堂の中へ御入りになりました。婚禮の行列も又續いて入りました、顫へる姫の手を堅く支えつゝ、鵠の武士は祭壇さして進み行きました。次いで婚禮の曲を奏するオルガンの音は起り、二人の誓ひの言葉も又取換されました。

武士と花嫁とが再び戸口に現はれました時、萬歳の聲は盛に湧き立ち上りました。二人は丁寧に頭を下げて公衆の厚意を謝しました。姫の顔には倘ほ涙の跡が有りましたが、武士の腕に擁せられて居りましたので、恐の樣は見えず、人々に對しても晴々しい笑みを洩らして居りました。

宮中に於ては其日美事な酒宴が催され、王を始め主だちたる華族市民迄之れに預り、日の暮るゝ迄みな喜び樂しみ、又市場に於ては町の人々相集つて鵠の武士が有りあまる程供へて呉れし物をもて酒くみかは目し出度き姫の結婚を祝ふて喜び合ひました。

うめくさ

ミレー（落穂拾ひ及晩鐘の作者）

ジャン、フランソア、ミレーの一生は藝術の士に堪へ忍ぶべき殆ど有らゆる困難の記錄にして、殊に個性の開發に基づける其晩年の成功は後進の士が永く龜鑑とすべきものなり。一八一四年佛蘭西のシエルブールの近傍に生れ、二十歳過ぐる頃までは彼の前途には唯野に耕す者の運命のみ望まれき。されど藝術の天才は夙に現はれしかば其土地の人に助けられて巴里に赴き、畫家デテルッシユの門に入りぬ。されど流派に泥むは彼の好まざる處なりしかば彼は去りてバルビゾンの田園に移りたりき。バルビゾンの生活は彼に自然てふ新しき師を與へぬ。彼が大成の才氣は之より俄かに發して他の卽接を許さゞる彼の個性は大空に舞ひかける鵠の如く自由に其翼を伸しぬ。彼の不朽の大作は何れも此時期に於て世に現はれたり。かくて彼は一世の讃美の聲に包まれつゝ一八七一年六十二歳を以て此世を去りぬ。（樗牛）

レーニー（荊冠の基督の作者）

十七世紀の美術史に於て最初に記さるべき名の一つは疑もなくギド、レーニーなるべし。彼以太利のボロニヤに生れ、初めは當時の名家として名高きルドヰコカラッチの門に遊び夙に出藍の譽ありしが、幾もなく羅馬に入るや、心を潜めて畫聖ラファエルの手法を學びぬ。彼の名が世に揚がりしは此時よりなりき。其描寫の正確なる其想像の豐富なる、其情操の幽婉なる其賦彩の巧妙なる、當代彼に及ぶものなかりき。其作は何れも苦心の餘りに出でたるもの多しと雖も、渾然として斧鑿の痕を留めず著筆著色共に淡々として不用意の妙あるが如き傳へて藝苑の逸話となれり。一五七五に生れ、一六二四に死す。（樗牛）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

隨感

◎暑さも亦心の持ち樣

安井哲子

一方には午睡して此長い夏の日を空しく暮す人があるかと思へば、又一方には盤臺擔いで「ヘイ今日は」と勢よく日中御用を聞きに來る商人もあります。又不作法にも着物脱ぎ去り殆裸體で「暑い暑い」と苦しむ人があるかと思へば、軍服整然と而も「ランドセル」まで負つて、姿勢正しく直立して居る兵士もあります。かう暑くては迚も堪へられぬとこぼす自分も、六七年前の今頃はシャムの酷熱と戰ひつゝ勇ましく働いて居たのであります、苦しい炎熱も積極的に勇んで迎へれば、却つて心も引締り手足も快く活動します。假令寢て居てもどうせ出る汗、充分に運動して瀧のやうにドン／＼勢よく流し出すのが却つて體溫を蒸發させる所以であります。一日に着物二枚もぐつしより濡して働いた後、行水に盡く汗を洗つて、清い浴衣を着換へたシャムの昔の愉快さは今も尚忘れる事が出來ません。

◎變化の生活

海老名みや子

皆さん此お暑い間をどうしてお凌ぎになりますか或は海に或は山に、お出かけになつた方々も澤山おありになりましやう。それは避暑として最上の方法でありませう。先づ塵深い都の地を去つて田舍へ行き、新鮮な空氣を呼吸し、生々した自然の香に接する丈でも命が四五年も延びるかと思ふ樣です。それに海水、溫泉、山登り、嗜好に從ひ動植物の標本採集などいづれも結構であります。年に一ケ月も一家擧つて避暑が出來れば此上無き仕合であります。此時こそ初めて親と子が終日共に生活することが出來ますので子にとりては親の情愛に充分に觸れることが出來、又親にとつては子供の各自の性質もよく見

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

分ることが出來て十分の注意を與へる事も出來ます。と申て、あまりやかましいことばかり申ませんで、親も子も與ふ極り自然の氣に觸れ、思ふ存分自然の味を味ふのが肝要であります。出來ることなら宿屋住居にせず自炊にして兼て持ちつけない手に庖丁をもち、くみつけない井戸の水もくみ、力一ぱい働くのは、水は栓をねぢれば出るもの、マッチ一本で火は燃るものと心得てる都のお孃さん方にはどの位よい體力の練習であるか知れませぬ。田舍に行つたら成可く其土地の有合せのものを以て間に合はせることが大切だと思ひます。たとへば伊香保の樣な山の中に行つて强ひてなまぐさい味を求めて一疋何十錢と出して少ない利根の珍味を賞味せんでも滋養にこと缺くことはありません。其土地の人が生活するには其土地相應の食物がありますから、それを最も上手に、經濟的に調味するのは誠によいお稽古であります。海岸なれば無論、新鮮の魚類な…ありますから其近海でとれるもの、小鰺でもなんでも一番多くされるものを用ひ、樣々に料理法をかへてつかひますことは一面非常の經濟にもなり、又一面料理法の研究にもなります。どんな海岸でも鯛とかすゝきとかいふよい魚は、都におとらずお高うございます。それをお總菜にすることは中流の我々にはチト過ぎる樣に思ひます。兎も角も其土地の人が常食として居るものを用ひるとすれば間違ひはありませぬ。そして少し研究すれば其土地の人よりずつとおいしく食べられます。

ところが、避暑に出かけないで籠城して此苦熱を過さんとするものはどうしたらよろしうございましやう。子供達もよくさう申ますが「誰々さんは今年は輕井澤においでになるさうだ、何々さんは鎌倉へおいでになるさうだ。私達ばかりどこへも行かないでつまらないわ……」これ一應尤もなことで、事情がゆるすならば、どこかへ連れて參り度いのですが、さう行かない場合には夫れ相應の避暑の工夫を汝さねばなりませぬ。先づ第一に夏休みといふこと

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は學校がお休みになるのと共に、何もかも休[illegible]んで寝たり起きたりしたい三昧をする時[illegible]たといふ樣な間違つた考へを有たない樣に[illegible]するとが大事であります。

全體此「休み」といふ字が困つたもので、凡ての運動凡ての活動を止めることの樣に解しますから間違つて來るのであります。別して生きた人間が只の一時でも凡ての活動を全くやめて「休み」ましたらそれこそ大變、到底たへられるものではありませぬ。人は強ちじつとして居るのが休養ではありませぬ。休養といふことは生活狀態に、變化を與へるといふことであると思ひます。例へば常々勞働して居る人人は時たま靜かに休みますとが、其人には眞に休養で、忽ち元氣復活するとが出來ます。これに反して終日机に向つて讀んだり書いたり又は默想したりして居る人なれば、朝夕庭の掃除をするとか畑でもするといふとが、其人の休養となるのであります。人は折々其仕事を轉化さへすれば、いつも新らしい氣に滿ちて、屈託することはありません。それで此夏休みは乃ち生活の變化といふことを主眼にしてプログラムを割り出して見ねばならないと思ひます。

若し其人が重に學校生活を爲して居る人なれば夏中は家庭生活を主としてそれを最面白く、有益に出來る樣にするのであります。兼ては學問に多くの時間を取られてをりますから、夏休には音樂の練習や家事のお手傳、何なりと其家々の風に從つて最興味を以て出來る樣にするならば一面暑を消す術ともなり、心身の練習ともなり、來らん秋には思はぬ收獲を得ることが出來樣と思ひます。如何に變化すべきかは御めい／＼の御考にお任せして斷じてよくないと思ふ二三のことを御參考に記して置きましやう

一朝寝坊をすること　學校がある間はどうしても朝早く起きてお仕度をしたり勉强をしたらしなければならないからお休み中にはうんと寝ましやうさよい理屈を考へて遠慮なしにお寝坊をする人がよくありますがこれは大間違ひであります。

一夜更し　お休みだからといつて夜おそく迄遊んだ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り、つまらぬ小說などを讀んでいることなどは年若い人達には嚴禁であります。きつと頭を惡くしてしまいには神經衰弱になります

一間食　これは申迄もなく閑暇にまかせてだらしなく間食を致しますと、此お暑いのにいとゞ弱つた胃がきつと閉口して故障を申出します。

いつも／＼岩の間から迸り出る清水の樣に體中の生氣が湧き出しますならば、決してお暑になぞはまけることゝはありませぬ。

◎蝶の訓

S・T・子

行かうと志した目論見は出さきになつて先方から外れた。其時間を埋める用事を胸に並べながら椽端に編物して居た時ふと息絶えかけた蝶が地びたに翼を落して悶へる力もなくなつて居る上を、何處から尋ね寄つたか同じ形の同じ色の蝶が一匹小く圈を描き乍ら其上を舞つて居る、不思議に心が引附けられて持つた編物を膝に置いた儘暫時眺めて居ると其舞ふ事と言つたら、幾十回かの間には三度四度五度と舞ひ下りては援け起さうと悶掻く、果ては共に斃れるばかりにもがいて疲れては舞ひ上る、再た下りる同じ事を繰返した末終に氣息奄々として椿の下枝に身を托して暫し羽を休めた。友か妻か將た親か、其まごゝろの通じてか地の上の蝶は羽を擧げた。痛ましくも破れて居る、羽を擧げては休み、徐かに歩んでは又息ひ、果ては二間ばかりを低く飛んだ。ア、飛んだ／＼思はず手を拍て喜んだ、椿の下枝のは再び下りて來て頻りに復活した友を搜がして居る。

見る眼は極てしなく曇つた、ある甲斐もない蟲けらにさへかゝる濃やかな情けがあるものをと、三坪の庭の中に今朝受けた敎訓を夏を忘れて見る眼に更に可憐なさつき花一輪後れ咲いて慰めがほに見えて居る。

畏けれど御惱になやませ給ふ陛下にの爲國母陛下御手づから氷や氷嚢を執らせ給ふと洩れ承はる、御軫念の御程おもひ奉つるだに胸潰るゝ。（七月廿一日記）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時事其折々

記者

聖上陛下御重患

▲申すも畏き事ながら一天萬乘の我が　天皇陛下におかせられては去月十五日頃より御不例に渡らせられたる趣で御座いますが、超えて十九日に至り御體温四十度以上に昇らせられ御重體の由宮内省から公表されました。諸侍醫を初め三浦青山兩博士の周到なる拜診にも係らず、爾後御病勢容易に衰ふるに至らず、雲深き九重の奥を初め庶民一同日夜憂愁に閉ざされ、何卒して一日も早く御平癒あらん事をと祈り居る次第で御座います。承る處によりますれば　聖上陛下には去月十五日樞密院會議に御出御の際何となく御氣色勝れさせ給はず、例になく御頭を垂れさせゐたまへる事、山縣、松方、樺山の諸老臣の私かに御不審申し上げたる由なるが、遂に斯くの如き御大患にかゝらせ給ひました事、吾等憂慮の極、申上ぐる言語だにない次第で御座います。

▲御病症は尿毒症と申す事で、之に併發症でも伴ふ場合は往々にして快癒困難なる病氣と傳へらるゝだけ　陛下今度の御病氣も一刻も油斷出來ず、最善の方法を盡すと共に、一方赤誠を神明に披瀝して、玉體御快癒の上に萬全を期せなければならぬ事は吾々の今更申し上ぐるまでもない事で御座いますが、それにつけても玉體に近侍し奉る供奉の方々、及び三浦青山兩博士以下他の侍醫の方々の御心勞の程は誠に吾々の想像以上のものがある事で御座いませう。吾等はひたすら　天皇陛下の御快癒を祈り奉るにつけても、之等直接御診察御看護に從事する人々に對して、滿腔の感謝を表せねばならぬと思ふもので御座います。別けて私共の嬉しと致しまする處は、宮内大臣が從來の情實に捉らはれず、早速　陛下の御容體を公表し、有の儘を國民に知らしめた事で、之に依り私共國民は異に　陛下の御惱みに就て祈る事が出來且つ　陛下を想ひ奉るの情も一層深きを致す事が出來ました。此の事に關しても私共は其の筋の方々に對して感謝を表すべきだと存じます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲此の御容體書發表に就ては、恐多くも　皇后陛下が特に其御許しを與へ給ひしによると申す事で御座います　皇后陛下が吾等臣民を深く憫察あらせらるる事私共の深く感佩する處で御座います。今度は又た平生蒲柳の御質にゐらせらながら、日夜　陛下の枕頭を離れさせ給はず、數日の間衣帶も解き給はず專ら御看護に盡し給ふ由を漏れ承りましては、吾等の双頰自ら感涙に溢るゝ事で御座います。偶々御水痘にて御引籠中なりし皇太子殿下も、御父君の御病氣と聞かせられては、御心も御心ならず、侍醫を急がせらつゝ無理にも御參内御見舞があり、皇孫殿下御三方におかせられては御憂慮の結果御食事も常よりは減少し、打ち沈みてのみ過させ給ふとやら、御親子の御情け、誠に吾等臣民の龜鑑と申し上ぐるも恐れ多い事で御座います。

▲此際一般臣民が表せる赤誠の志は、實に吾帝國が世界に冠たる國體なる事を最もよく證明する處で、御重患の報一度び傳はるや都會の地は申すに及ばず、津々浦々に至るまで等しく御心配申し上げ、自ら謹愼の意を表し、且つ熱心に御平癒を祈願しない者はない有樣、日露戰爭當時と雖も斯の如き一般國民の誠忠は見る事が出來なかつたらうと思はれます。二十三四日以後の二重橋外は　陛下の赤子相集ひて御快癒の祈願を籠むるもの日々數萬に上り、別して夜更け人靜かなる時は、御濠端の玉川砂利に土下座して長時間跪拜する奇特の人々數千に上ると云ふ事で御座います。偶々來り會せる一外國人はこの有樣を見て、非常に感じ入り、日本が不思議な力を有する譯が初めて了解されたと申す事で御座います。

天皇陛下の御治蹟及び御逸事に就いては傳ふ可き事頗る多く御座いますが、今は只御惱の一時も早く御快方に向はせ給はん事を、讀者諸君と共に祈る事に止めたいと思ひます。

▲最近の報告によりますれば愈々御危險との事で御座います、六千萬の熱禱も遂に受け納られず吾等の慕ひまつる　陛下は或は吾等を見捨てゝ行き給うにはあらずやと拜せらるゝ御容體で御座いますが、神明の加護深き　陛下の御身で御座いますから吾等は終り迄御平癒を熱禱してやまない者で御座います。

（二十八日夜謹誌）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

編輯だより

七月二十日俄然　聖上陛下御大患の報を耳にした我れ等は、嘗てなき驚きと憂ひに閉され、只管に御平癒を祈り奉りました。恰も本誌は夏期號の編輯を了し、平和の夏を樂しみし昨日迄の心の紙面に陸るゝを見るのも、いと悲しき事でありました。

△わが讀者諸姉も亦赤誠籠めて御平癒の一日も早かれかしと祈らるる事は、一つであらうと思ひ、夏期號の編輯を改めて、卷頭に御平癒を祈り奉る詞をかゝげて、皆の心を表はす事と致しました。さりながらさりながら、我れ等が赤心より祈る心の萬が一にも及ばぬを恨むものであります。あはれ照りはたゝく夏の日よ、われ等が大君の御惱みを増し奉る事勿れ。

△海老名主幹の一家、安井哲子氏を始め、何れも轉地を御遠慮申上げ、謹んで御平癒を祈つて居られます。

△かやうな次第で本誌には昨今のわれ等の心にふさはしからぬ記事も多く見えませう。一方よりは涼風を送り、一方よりは更らに熱き湯を以て、皆様の汗を拭ふて差上げたかつたのです。併しながら暑さはものかは、今日願くは天地を覆ふこの愁雲の一日も早く拂はれて、再び聖代の夏の日を樂しみ度きものと切に希はれます。

二十八日午後記　三四子

定價

(郵税加算)	内地及朝鮮支那	外國
一〻	金拾貳錢	金拾六錢
六部(半年分)	前金七拾貳錢	前金九十貳錢
十二部(一年分)	前金壹圓四十錢	前金壹圓七拾五錢

廣告料

一行(廿三字詰)	金廿五錢	一頁	金拾圓
四半頁	金三圓	内表紙	金拾貳圓
半頁	金五圓	外表紙	金拾八圓

猶ほ引續き御廣告の向へは特別大割引可仕候

摘要

▲本誌代金は總て前金にて御拂込み被下度候
▲郵券代用は一割増の計算にて御送附被下度候
▲御送金は振替にて拂込ろゝ方便利に候但手數料金壹錢御加へ被下度候
▲通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず發行所宛に願上候

大正元年七月三十日印刷
大正元年八月一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區丸山町四番地　相原一郎介
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所
發行所　東京市小石川區林町四十三番地　新人社
電話番町二五四四
振替貯金口座一四〇〇五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

拾二卷

新人

合本

殘本僅十數部 定價金一圓參拾錢（送料共）

社説（海老名主筆）

▲教育勅語と基督教▲現代基督教の二大根據▲國民道德の進化▲國民道德の究境▲朝鮮傳道▲國民道德の根本を發揮せよ▲神社崇敬の疑問▲朝鮮に於ける感想▲朝鮮人の使命▲祖先崇拜か子孫崇拜か▲我國民性の變遷と基督教▲支那の內亂と帝國民の覺醒

教壇（海老名彈正）

▲超人の使命▲信仰と忠君▲弱者の宗教強者の宗教▲現代に對する基督教の使命▲橄欖山上のキリスト▲基督の自覺▲新道德の基礎▲基督の流離▲基督の僕と友▲希望の生活▲自信▲靈能の實證

想苑

▲精神生活の內活　高木壬太郎
▲現代思潮と教育家　加藤直士
▲基督教界の缺陷　中村長之助
▲一元か多元か　富永德磨
▲近時の基督教觀　津荷環山
▲教會大合同論　內ヶ崎作三郎
▲基督株殺論を駁す　額賀鹿之助
▲滯德日記　吉野作造

▲基督教神秘主義の興起　富永德磨
▲基督教會成立の顛末　中村長之助
▲基督教の賜物　安部磯雄
▲基督教と沒我思想　芦田慶治
▲基督教は個人主義か沒我主義か　富永德磨
▲時代先覺の識見　海老澤亮
▲東洋思想と基督教の交涉　赤司繁太郎
▲社會事業の新紀元　鈴木文治
▲東洋意識と基督教　中村長之助
▲基督者の見たる起信論　津荷環山
▲イエスの人格　額賀鹿之助
▲自然主義か理想主義か　鹿手木員信譯
▲天才論　富永德磨
▲基督教の眞髓と宗教哲學　久布田直勝
▲教派合同の史的發達　小平國雄
▲イスカリオテのユダ　森脇白夜
▲予が基督に對する關係の歷史　安部清藏
▲予は佛陀より基督に往けり　小山鼎浦
▲祖先崇拜と基督教　赤星仙太
▲國家主義と個人主義　帆足皆夢
▲實生活に働く信仰の力　內ヶ崎作三郎
▲海野氏の日本人種改造論を讀む　谷津博士
▲聖書講義▲雜俎▲時潮小觀▲文藝小觀
▲時評▲其他

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界 第三卷 合本

殘本僅十數部　定價金壹圓（送料共）

◉社説 （安井哲子）

▲死ぬ迄働き續ける元氣▲無意識の感化▲個人の歴史▲奮闘と慰安▲他人の喜びに對する同情▲趣味のいろ〳〵▲過つて改むるに憚る事勿れ▲懐かしい十年前の夏▲温情▲勇氣▲犧牲の精神▲心の準備

◉講壇 （海老名彈正）

▲現代婦人の缺陷▲永遠の生命▲恩惠の聲▲柔和の福音▲誤解せられたる基督▲女子の解放▲愛苦の眞義▲神の聖愛▲向上の動機▲基督の家庭▲基督教の眞髓

◉想苑

▲新らしき生活　谷津博士
▲現代女學生の惡傾向　小此木松子
▲禮義の根本觀念　三谷民子
▲亞米利加だより　海老名一雄
▲かあやん　德富健次郎
▲現代小説雜誌　小山東助
▲湯臺叢話　谷澤直秀
▲獨逸見聞記　吉野作造
▲婦人解放の是非　宮田脩
▲佐久間大尉の手紙　德富健次郎

▲矯風問題　島田三郎
▲女子の教育の標準　村田勤
▲婦人の活氣　小此木松子
▲伊香保より　野口精子
▲形式道德の無能力　村田勤
▲土耳古の話　小松武治
▲惠み多かりし二夏　三谷民子
▲夏の巴里　藤島武二
▲西班牙の夏　湯淺一郎
▲常樂の生活　二宮貞子
▲子女教育に對するの母の務　海老名みや子
▲婦人と信仰　海老名彈正
▲「アンドリヤ、デルサト」を讀みて　三谷民子
▲無題錄　小此木まつ子
▲女子の高等教育論　ジヨルダン博士
▲我國女子の將來　成瀬仁藏
▲婦人解放問題　内ヶ崎作三郎
▲男女問題の意義　安部清藏
▲淨心錄　谷澤直秀
▲世界最大の美　宮川經輝
▲文欄▲家庭▲雜俎▲衛生▲隨感▲其他種々

院長診察、月、水、木、金午前、入院、診後應需
林、峰間、兩副長ハ目下當院ニ在勤、
(電)八八八八(病院用)
(本)八九八八(私宅用)

東洋內科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎海濱從停車場半里
電、チガサキ二番

南湖院

河野、高橋兩副長ハ目下當院ニ在勤
院長診察、土曜日午後、入院、診後應需、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大正元年八月一日發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可　定價金拾貳錢

ライオン歯磨

見よ

活躍せる商標のライオンを見よ

獅子の商標の行く處歯牙健に口中清く身神自ら爽快なり。

發賣元　東京 大阪 名古屋　小林富次郎

東京市小石川區林町四拾参番地　新人社　振替口座東京一四〇〇五